

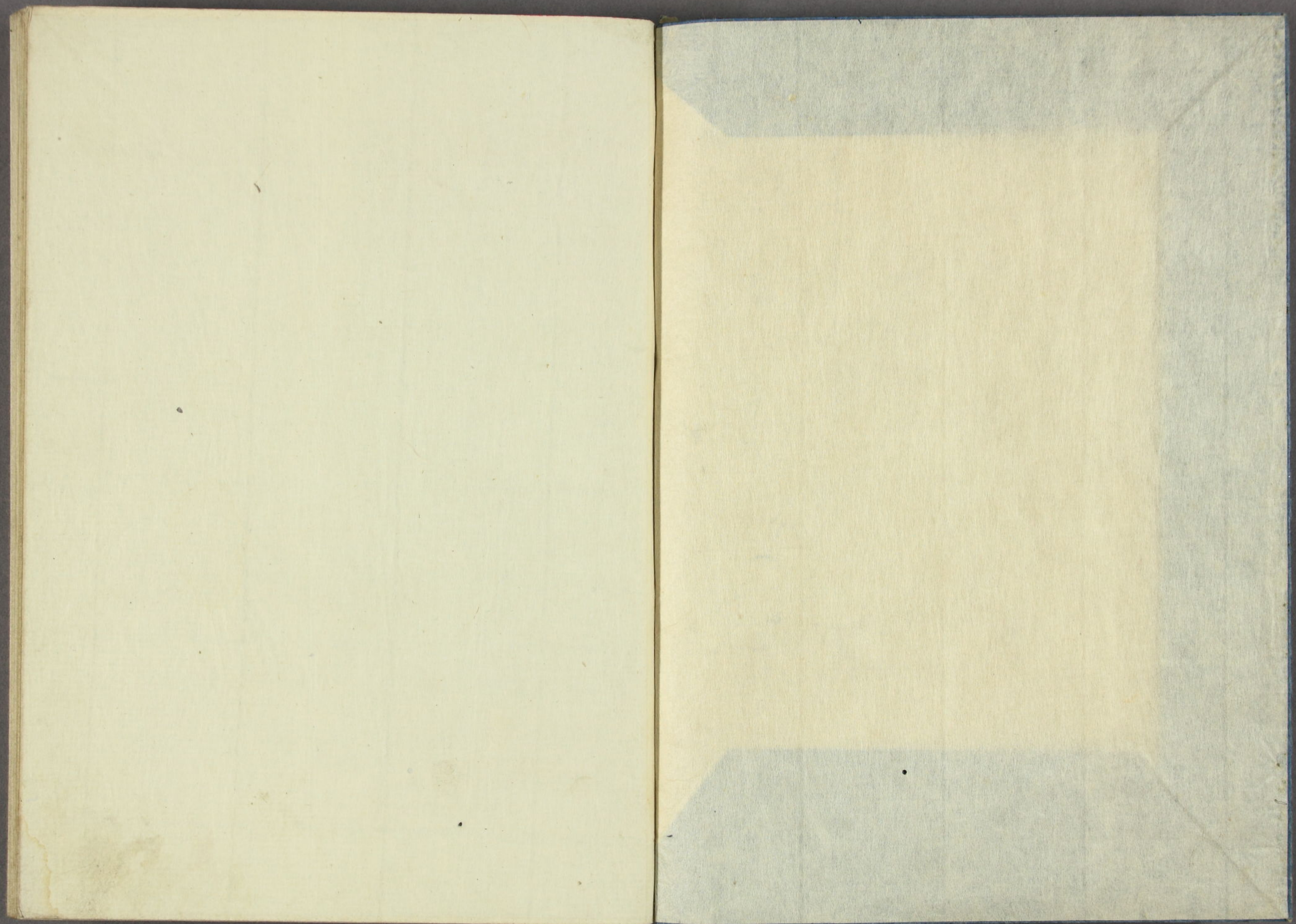


蝦夷唐土道中記

特別  
ル4  
4095  
1

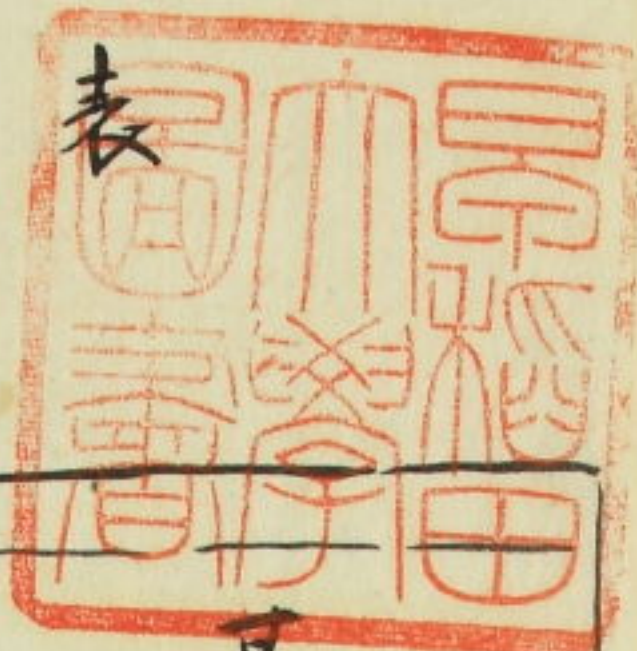








裏



甲 嘉 永 七 年

其 從 陸 奥 松 前

道 中 覺

一 蝦 夷 地 唐 太

寅 三 月 吉 日

播 野 貳 丁 目  
大 黒 屋 幸 吉

美 波 氏 摺 帳



門 凡 生  
號 4095  
卷 1

嘉永七年癸卯三月

御目月堀織部探村恒孫之介  
御事任方心経目月  
小人方門方根表方右近  
御用心出三月右堀  
織部孫御供々年九月七日  
御事

山下

由乃天神  
御事

△ 千住

御本陣

今の上より新に道を通り  
心付合はれ申上候  
御事

一り  
六月村ト一候事

竹三郎

心付

昭和二十八年  
十月三日  
購求



一り早加  
一り早

台 古和屋 平三郎

加茂村

心持三

こじしちらし

○ 大澤

須中保

七の四等

間栗

社田丸 市三郎

一り早  
粕碓

松尾 春吉

△

一り早  
松戸

須中保

下宮 難波梅く 富科 松尾らし

一り早  
寺白

須中保

○

一り早  
栗碓

芭蕉く 文

心持三

白田 富入らる 田村 孫 心持 行 通 次 今 心持 三郎 一り早  
以 心持

須中保

利根川 向く 古井 福 谷 辰 倉 と 古 船 心 持 三郎

一り早  
中田

心持三

白 富 子 岩 松 山 光 子 子 守 静 女 古 松 下 若  
義 徳 一 五 条 松 村 心 持 三郎 心 持 三郎

△

一り早  
古河

須中保



野木

友の同八階

五段空移りかぬよ

心也三

心也三

向々田

三後方大南羽三匠意

序本陣

喜本八之節

○ 小山

一り半

新田

心本陣

心川若子所

序本陣

一り半

小倉井

心野三

序本陣

甲辰多子所

△

石橋

一り半

葎宮

序野三

上列石若所

老新田

○ 宇津宮

序本陣

四月之朔少神行多給我仰在子物地三友  
調是物一佐丹及多行給中三友置世又書林  
を海に頼む  
江戸台栗原を小ウサ之妻公東一且路宮台又抄  
多々山是台之右地有

海道新田

心也三

一り半

白澤

出陣(出陣)  
仙居心若子所



可成田地もわきまの如く

紹川

水田

四角三三丁

阿久津川

田

稲うき

阿久津村



氏家

阿久津

四角少敷方河合町



花蓮川

阿久津

山崎山崎

多根田村

阿久津



作山

阿久津

福系川原の陣を交代

四角少敷方河合町

大田原

阿久津

練貫

阿久津

大田原

阿久津

少敷方

中川

阿久津



大田原

阿久津



昔の古歌あり小坂道に程三ふり

一り半 石甲坂 心ゆく

そりて下斗新里川橋東(向) 其野中勢孫  
飲交代 けささう岩合斗り

△ 一り半 其野

そりて下斗新里川橋東(向) 其野中勢孫  
飲交代 けささう岩合斗り

一り半 其野 所本陣 其野 其野

下野 其野 明神

南野 其野

そりて白井領並木道より出たり

去り坂村 川少村 其野 其野

○ 白川 序本陣

白川 序本陣 其野 其野

其野 其野

七守候の月めく 平八綱の切身 其野のわけ

其野 其野 其野 其野



石ノ巻をくぐりて福原とて通船なりトテ其處  
才一ノ二ノ古河の水原ナリ

可レ古河  
小田川

心野之

一ノ余

中野松

口ノ多志毛

是略ニヨリ

△  
矢吹

笠石村

中野傳  
桂川中野  
笠石地蔵  
口ノ多志毛

後河村

中野傳  
中野傳

名和保常角今ハ少クハ河ノ物

○  
一ノ年  
河賀川

中野傳  
中野傳

是と白川飲山白川とて今ハ少クハ河ノ物  
始ハ多ク申候之ハ其ノ家ハ少クハ

一ノ年  
是は河地ノ一ノ田也  
世川

中野

出ぬけたりとて今津下代山ノ物とて白  
川とて今ハ少クハ河ノ物

△  
一ノ年  
郡山

中野傳  
今ノ中野

是ハ入山ノ一ノ下ノ地也

古河  
福原

口ノ多志毛

一ノ年  
今ノ中野

是ハ河ノ古河ノ河也今ハ少クハ河ノ物  
田也ハ是也



筆程け一きう一花男もせすトロー

仁井田

元宮

少休

よき所十三日一有我由在風動き二り一丁加築也  
る幸そく

松田 赤光 彦

心機

大庭ノ後の山一と安達郡 日原ヲ又晴也



二本 松

あまの

東 伊 中 俣 山

當ッ松ハ大庭ノ掛ル中ニ東海及テ亦ニ水  
アハハナリハ松ハ分テ海ノ中ニハ  
るナリハ松ハ分テ海ノ中ニハ

二本 柳

伊 中 俣 山

あまの

二本 目

長 中 俣 山

伊 中 俣 山

月ハ大庭ノ掛ル中ニ東海及テ亦ニ水  
アハハナリハ松ハ分テ海ノ中ニハ  
るナリハ松ハ分テ海ノ中ニハ

清水 所

伊 中 俣 山

よき所十三日一有我由在風動き二り一丁加築也

伊 中 俣 山

あまの



福 治

伊 中 俣 山

よき所十三日一有我由在風動き二り一丁加築也



多のー三斗川下柳川 重頼時日一傳  
城下り出

赤川 早瀬 傍り

藤田村 河の傍物とて けしや元豊  
にて 往來五根のり

瀬ノ上 昔は 赤川 昔は 赤川  
昔は 赤川 昔は 赤川

赤川 昔は 赤川 昔は 赤川  
昔は 赤川 昔は 赤川

赤川 昔は 赤川 昔は 赤川  
昔は 赤川 昔は 赤川

赤川 昔は 赤川 昔は 赤川  
昔は 赤川 昔は 赤川

一目とて 〇 二月 柳川 昔は 赤川  
昔は 赤川 昔は 赤川

赤川 昔は 赤川 昔は 赤川  
昔は 赤川 昔は 赤川

赤川 昔は 赤川 昔は 赤川  
昔は 赤川 昔は 赤川

赤川 昔は 赤川 昔は 赤川  
昔は 赤川 昔は 赤川

赤川 昔は 赤川 昔は 赤川  
昔は 赤川 昔は 赤川

赤川 昔は 赤川 昔は 赤川  
昔は 赤川 昔は 赤川

赤川 昔は 赤川 昔は 赤川  
昔は 赤川 昔は 赤川





白石

その田地産也

序中條

白之川 陸の大河 土俗古き事なり 此の昔 陽世多の 浅布各物冬ハ白雪結ぶ事

宮野

宮野山ぬけて 松川三原 土俗ニテ

かぶ石明神

心地ニ

けこくまの根花出入 在方と此陽世多の 但る飲 考ハカ

今ヶ際



大河原

序中條

九九序五子 陸多し 十百上五子 西凡 但る信 醫原 古人命 此馬ノ 土俗 陸中 此原 地是ナリ

船白

右に 序中條

榎木

序中條

岩原

序中條

陸の 考ハカ

埜田

序中條

名海川 土俗ニテ

中田

序中條

長所

仙居入口 土俗産 陸川 卒 考ハカ 序中條 陸多し 考ハカ





國分町

伊予傳

當の町下段より長中町芭蕉一辻迄を控所  
モみへ能新一太西と云ふ所下段平斗り  
城下ラ出又ケテ山の上ラ通ル並平斗り

七畠

伊予傳

大曲り

山上ノ多石砂平斗り

新町

伊予傳



吉園

伊予傳

伊予傳

伊予傳



三本木

伊予傳

町ノ中ニ成瀬川一平斗り  
橋ノ中ノ奥ノ平斗り  
つゞき多石平斗り  
仙臺中ノ奥多石平斗り  
目も不備と云ふ

古川

伊予傳

括合川一平斗り

荒谷

伊予傳



高清水

伊予傳







橋

高籠

の野

判官殿

りくこたし方そり余入て松山ヲせり九市判官殿の  
高有義経公早衣入之安甲男より先り松山  
々々古寺、先も有うと只小上川、松衣川、高有  
大河もけ山も村も有し今、せま、南郷、  
出ん小上川、松山、大川、安下山、又た、  
山、赤松、の松地、千、安倍、頼時、自任  
室任、松地、上り、十二、も、熱門、今、中、  
一、大地、寺、し、大、赤松、の、心、を、松、地、を、多、  
七、百、十、年、も、古、跡、ナリ、多、松、赤、松、の、心、也、

極武、寺、ナリ、赤、寺、も、有、り、  
之、寺、も、有、り、  
心、集、心、も、有、り、

一、  
赤澤

赤澤

此、高、之、道、を、平、に、少、年、當、り、地、を、出、入、松、山、に、  
赤、松、山、に、有、り、赤、松、山、に、有、り、赤、松、山、に、有、り、  
松、山、に、有、り、赤、松、山、に、有、り、赤、松、山、に、有、り、  
赤、松、山、に、有、り、赤、松、山、に、有、り、赤、松、山、に、有、り、

○  
水澤

水澤

十四、日、に、赤、松、山、に、有、り、赤、松、山、に、有、り、  
赤、松、山、に、有、り、赤、松、山、に、有、り、赤、松、山、に、有、り、  
赤、松、山、に、有、り、赤、松、山、に、有、り、赤、松、山、に、有、り、







花巻

小糸の田舎

市川陣

花巻を飲七つを... 田舎の長き町... 花巻を飲七つを... 田舎の長き町... 花巻を飲七つを... 田舎の長き町...

石鳥居

井筒

石鳥居... 井筒... 石鳥居... 井筒...

郡山

市川陣

郡山... 市川陣... 郡山... 市川陣...

盛岡

市川陣

盛岡... 市川陣... 盛岡... 市川陣...

市川陣

市川陣

市川陣... 市川陣... 市川陣... 市川陣...

市川陣

市川陣

市川陣... 市川陣... 市川陣... 市川陣...

沼田

市川陣

沼田... 市川陣... 沼田... 市川陣...



立後が大雨の風雨成り別々の事と云ふ所のあり  
雲を雨の中り里とつくと流もまゝと大勢なり

巻五 湯村

金剛川の中  
子母

志保

いづれ云

けりあつて少降の夜にけり松尾本より三ヶ所  
三ヶ所より多松の山を流るゝと云ふ所はたれか  
是よりや降るを流るゝと云ふ所

沼之内

沼之内

七ヶ所の山ありて大なる山と云ふ人  
十ヶ所の山ありて大なる山と云ふ人  
流るゝと云ふ人

小山上

小山上

是れ上川の山ありてけり山は  
南より北にけり山は  
北より南にけり山は  
東より西にけり山は

中山

中山

けり極山中の山ありてけり山は  
北より南にけり山は  
南より北にけり山は  
東より西にけり山は

小敷村

小敷村

小敷村の山ありてけり山は  
北より南にけり山は  
南より北にけり山は  
東より西にけり山は











日月寺近き相物にて余は平

野池

序中傳 仙居左

白雲を好て海より此の麓降り舟行ぬ  
是の麓に右由玉依井と伝ふと日  
けり之を履きて三日の途に方以入江なり余  
は怪しき馬居る西行

一り余也此地を平  
馬門村

南郷 町番所

出ぬけて此の麓降り舟行ぬ  
此の麓に右由玉依井と伝ふと日  
けり之を履きて三日の途に方以入江なり余  
は怪しき馬居る西行

小湊

此地を平  
小湊

オルニ

○ 町番所

是と書るに平に此の二方信に作たる板屋  
漢の才高しなり運出なる多し  
魚漢之時人あり是の町に舟行ぬ  
心体丸波なる野宮口に下すなり  
又此の町にバツカイと云ふ水あり吾水あり  
此の町に拉致あり川も流るなり  
此の町に石あり此の町に石あり  
此の町に石あり此の町に石あり

ワツカシヤクナイ

小湊



ワツカトハ水のよりシヤクトハ云々云々十イトハ江ノ多ク江ニ  
水流シテモ其ノ根を各トス又多ク希水流クハ多  
海（流）出テ海水も多ク希ク成所も之ニ

三ノ金  
ユクル

三ノ金  
又十お

小糸田より斗りくして多ク斗一合のラ善ん

〇〇  
三ノ金  
ハツカイ

又十 中書

其方夜分大なる朝方二面より方風由破き  
通る波荒く風の区多し其方オノも多クハ  
山ニニリ糸くして山内より糸くして其方  
大糸山山中了斗りくして流一斗ニ其方  
其方山中池多し其方糸も其方信立山内

大津師番所

三ノ金  
朝虫村

温泉

三ノ代 糸書

付湯名湯トラス平地の流也

一ノ糸  
野内

糸書

大津師番所

付くく入より斗りくして糸書其方一三ノ代は山内  
村斗り糸書田多し合割糸書流也田内  
小門の流也くまき山ノ内く大川の橋角也

〇  
三ノ金  
青盛

三ノ代  
御本陣  
糸書

由是は流也一ノ大湊大家多し大糸二三ノ代と  
其町入く堤川を中流く其方南流也西ノ







後々易名多し一ありしは海なりありしは  
殿係も多し一は海なりありしは三馬丸  
甲りしはありし

松前海名 東風<sup>ヤニセ</sup> 終る吹すは海なりしは  
風行すしありし

あるはせんありし甲ありしはありしはありし  
中々やまを吹ありしはありしはありしはありし

将喜しありしはありしはありしはありしはありし  
又浦の山ありしはありしはありしはありしはありし

ありしはありしはありしはありしはありしはありし  
ありしはありしはありしはありしはありしはありし

ありしはありしはありしはありしはありしはありし  
ありしはありしはありしはありしはありしはありし

重美利加舟五艘ありしはありしはありしはありし  
ありしはありしはありしはありしはありしはありし

ありしはありしはありしはありしはありしはありし  
ありしはありしはありしはありしはありしはありし

ありしはありしはありしはありしはありしはありし  
ありしはありしはありしはありしはありしはありし

ありしはありしはありしはありしはありしはありし  
ありしはありしはありしはありしはありしはありし

ありしはありしはありしはありしはありしはありし  
ありしはありしはありしはありしはありしはありし

ありしはありしはありしはありしはありしはありし  
ありしはありしはありしはありしはありしはありし

ありしはありしはありしはありしはありしはありし  
ありしはありしはありしはありしはありしはありし







新井用いし中法中り凡大人余料記人衆人凡  
時か心也そ十り福く一善く云

茶々々々一は心

後部

けつ入ふき

四

まじりあ  
こし

平

大の福ふと  
一スリてうさき  
せりも  
せり  
あつてけ

まの物 めづけ

匡富中日のめけ丹日ちるも村松原千外は  
く及人正行きもし降ち宗とちきす心あな  
日く心行しるあき言日林極略天子物言  
りく今も山田文ちる多く降き心るを

て石を道ゆりてあき多降るゆりて下あ  
あかりゆりて中く繁昌く地く難夷世を物  
大富は心あけりきもて日富富の法と十日と白前  
心あかりる上り西海岸くも  
大匡富中日のめけ丹日ちるも村松原千外は  
は成ま水成十又上るち成き又成りて立出  
候く心行しるあき言日林極略天子物言  
るの曲すすちり位アヒルも余程ちたりまきなり氣  
色も赤程く形アリ白アリ水脚も程く物成アリ  
大所くまき大く形なりた

三六曲  
三子曲  
ケラ科









松平(向)相様へ  
五丁口より七丁口は位は又水多し地味も  
多し一付方多板やうと一多あり根根  
その用之つえこしく物くも移去又位あり  
そのぬれ地とげ多水花も多しあうる人の出  
ぬも多し一付方多板やうと一多あり根根  
秋多ぬれと一付方多板やうと一多あり根根  
三子降も多し一付方多板やうと一多あり根根

△

茂草村

山手  
下宿 七丁あり

○

江原町村

山手  
下宿 七丁あり

その松平よりありよし

原田村

その山手七丁あり  
下宿 七丁あり

南に多き池に合はせと野にあつた  
多し一カぶねりして流る自れも多し  
キリ下ノ國あり又ふも多し中人多し

△

小砂子村

山手  
下宿 七丁あり

十五丁あり村そのま

石浜川

山手  
下宿 七丁あり

石浜村

けさのまエグノ山に多し  
下宿 七丁あり



○ 塩吹村

塩吹村  
下宮 少井 塩吹

海とて塩吹なる海にす

下宮 少井 塩吹

是の内にて其の最も塩吹なる所なり

塩吹村の北にあり

けさるる塩吹人種多し

伊州の北にあり

其の最も塩吹なる所なり

伊州の北にあり

木の子村

伊州の北にあり

△ 上ノ國

花徳山 木の子

伊州の北にあり

天ノ川舟

伊州の北にあり

伊州の北にあり

○ 江ノ左

伊州の北にあり

伊州の北にあり

伊州の北にあり

伊州の北にあり

伊州の北にあり

伊州の北にあり

伊州の北にあり

伊州の北にあり

伊州の北にあり

伊州の北にあり







ニツギヒト

けだニシニテ上テ百布花たもニスル中ニナト  
云々ノ後多クバ子いよま之ノ後日布一也  
云づーを國と集とく一タリ又アハビクニナ  
一平生は山ヨリウツル表向らり梅あせい  
此日月はるから干上長湯一キコモリ松

蚊柱村

少爺の母さん

少爺  
るんはる

相沼村

ツキ

長村一りある

トトスズヒ

黒石ヒト

泊川ヒト

泊川 子取母取

○ 熊石村

伊中集

十石を田

けさこも喜女おひりけト云々  
お傳も下供方斗り丸糸糸あおむそり  
坂東堺そりエゾ地産地を及豊為  
定山斗りある板垣とカ中匡るる凡三方  
斗りあり

廿月十四日  
廿日  
陸の定を  
蒼海



三三三

△  
タドロ

此より別と大定山と山あり太田大明神ヲおん  
山上ミクサリウスジトリ岳トテ破ノ岩宮ニ丹好処  
ト。ヲコシリ乃又合ス不

ヲコシリニ十甲斗リと云フワトセイヲトルツ  
トセイハ月方ニ豊月近ヲ吉トス夫がニヤキハ  
大子ブトトテ並後也ニ六七ノ月多シ

運上瓦房  
振夷ノ住居  
十五方ありと云

○  
フトロ

○  
振夷ノ乙名路乙名少使夫と後ノ路庭ハ  
甚ラリテ即降下少カ振下女ノ子ニたごニト

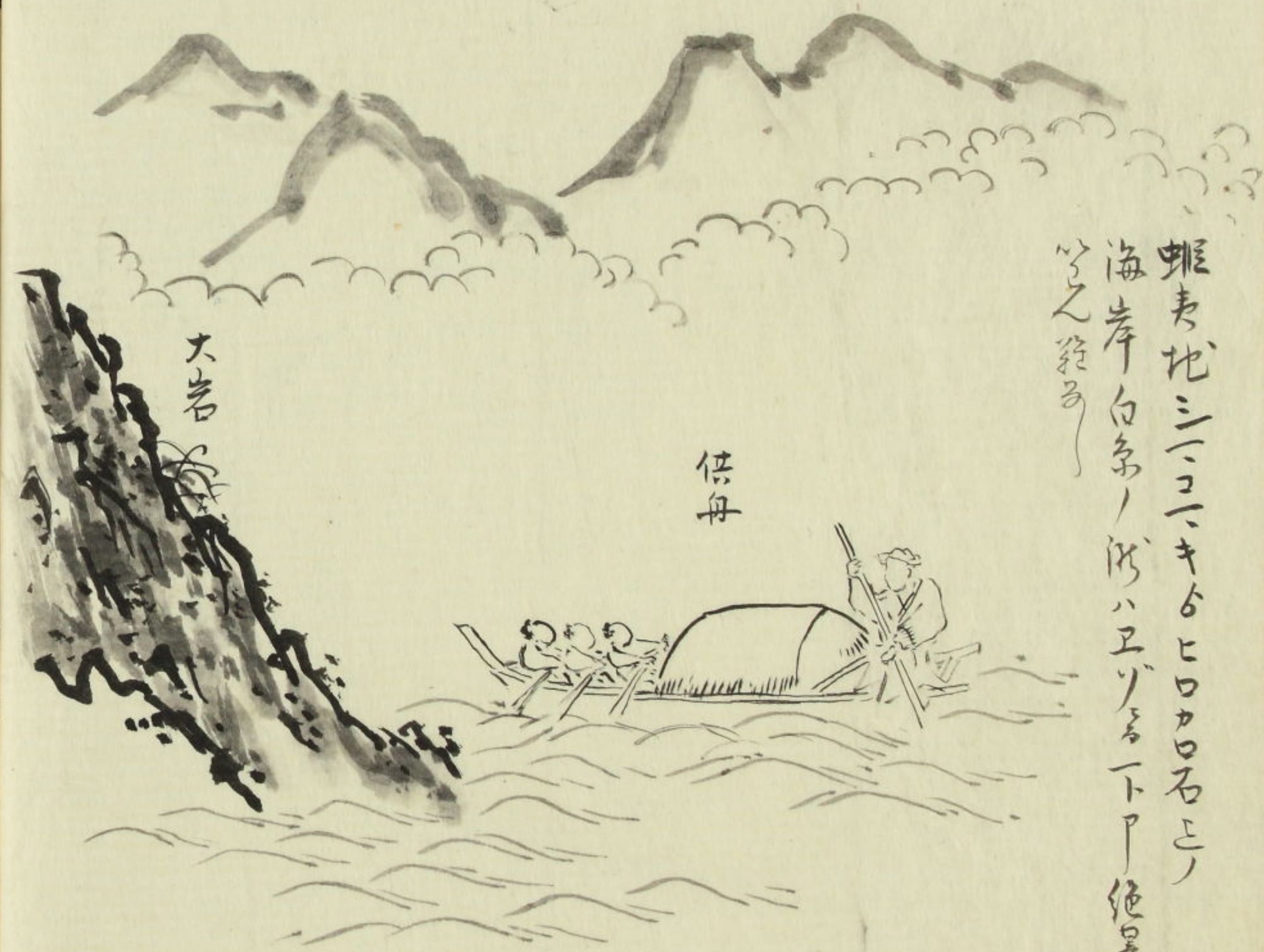
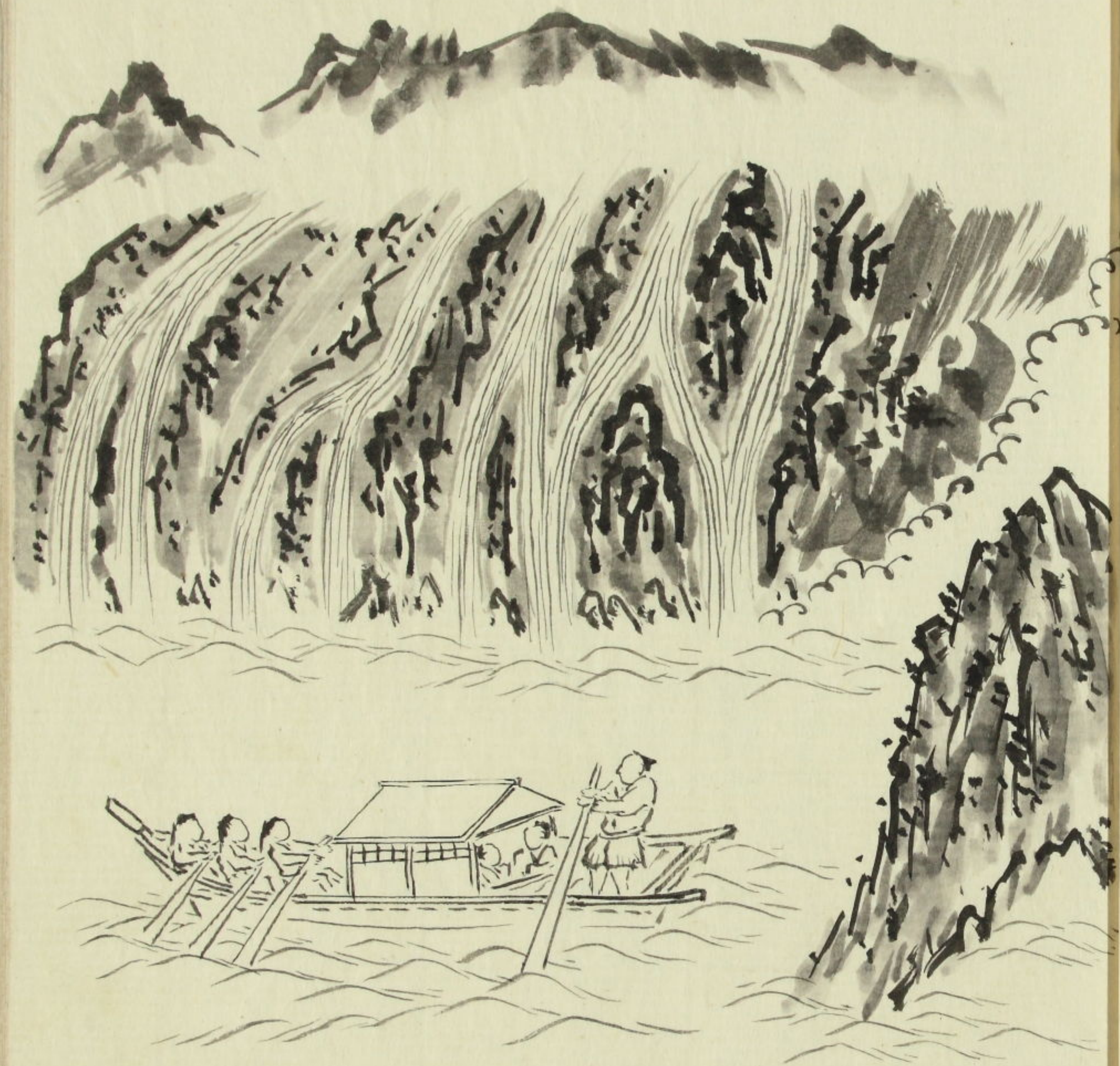
運上瓦  
浮石ら三七方



○  
セシナイ運上瓦  
古畑傳十郎

振夷ノ住居





蝦夷地ニニコニキハヒロカ石トノ  
海岸白糸ノ河ハエゾノ下ノ絶景  
望之難ク

倍舟

大岩







△ 四日  
スツ

イソヤ

ノツト

山崎新八  
支能人等  
仲和等  
支能 以吉

けさのあつち海大波は彼中か  
夕刻のつゑ

〇〇  
ニニキヨウニナナリ  
イワ十イ

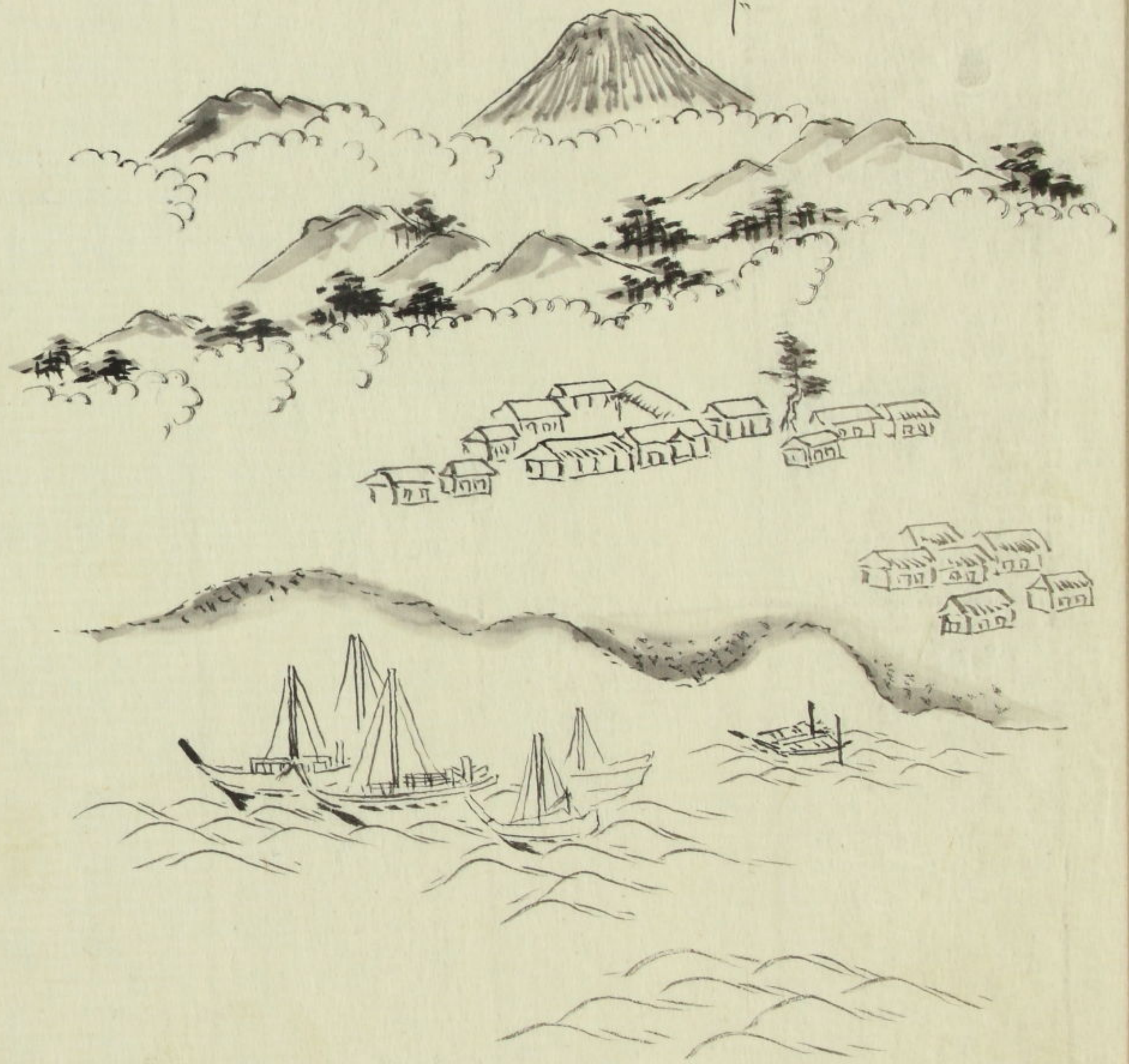
はるかに

けさのあつち海大波は彼中か  
夕刻のつゑ  
ハナニヨウニナナリ  
十イも大風あつち海大波は彼中か  
ハナニヨウニナナリ

海ナリ十イも大風あつち海大波は彼中か  
夕刻のつゑ  
ハナニヨウニナナリ  
十イも大風あつち海大波は彼中か  
ハナニヨウニナナリ



蝦夷下



四  
り  
年  
フ  
ル  
ウ

福  
津  
新  
地  
の

支  
那  
人  
新  
入

シヤコタニとて海峯ニてふの何京邸一帯代々名石又  
石多あり

即カム江サトP蝦夷と其く又もその神ノ大岩峯を  
きりけり仲るるはと日中ノのせり連任はもはらひあり  
是よりてきりい女の年ニサズ女ノ身ニおはさるる控ルト  
P 往來ノ舟は帆ヲおこり口ニ懐と通ルトコロ

即カムハサニ

高六七丈





カリ余  
ニヤコタニ

定田人三就  
支那人  
少松者七也

室ヲ余也シ海岸絶景多クカヤコノ一り抄  
岩ハ多クイワナリニヤコタニが嶽ニヤ押  
て是ユ

ビクニ

ニヤコタニ抄  
書名

けき(別)別る路多ク神セキ者十丈十二丈又仁五  
ノ形ナクイラシキ安者抄ノのしれ多ク種  
多ク余也

フルビラ

岡田平系  
支那人長官

今チ余ノ道徳ニ凡十九里半余を各ノ山  
中掛ノッ所ニ湯もら似る業ぬル一暗也

ヨイ千

口屋名

沖ラ色コ

ヲシヨロ

西川伝信

柳月ノ廣丸山系  
窓ノ窓ヲサセハ水際ニテ千斗ニ存リ四角ニテ  
テ親舟も色ニグ

今新  
仲ラ色

タカニ

ヲタル十イ



付所 云第の田をいゝ名の中、ありて

ハルウス

そのも伸りて居る哉

そのも、雲卯の方目も不届唐系、まこととせ  
後して是也

○ 石カリ

⑤ 阿部内二平  
支那へ移る

け下石カリ門、エリ地一、大川に秋味澤、山陰ス  
水も利根信、く川中、かとせま、大船、川入  
掛り、舟小舟、丸木、作多、を岩川、ラヤ、うらうら  
船ナリ、その東、推夷、エウ、ブツと山十三、凡、五、里、  
迫、ミ、岩、系、系、を、舟、多、丸、木、舟、田、多、ト、  
本、多、丸、系、系、目、ノ、押、き、丸、木、川、上、多、丸、ト、

口カイ、モ、用、之、川、上、と、エ、リ、ヤ、千、新、も、者、ト、  
家、こ、じ、あ、ま、の、言、有、程、ノ、額、有、初、秋、山、人、  
押、修、ノ、額、義、經、糸、考、ノ、款、干、卯、程、中、も、  
船、ノ、額、ハ、程、多、丸、大、島、舟、有、又、ミ、か、ケ、石、ノ、名、  
と、江、ノ、極、系、又、系、何、系、と、有、口、フ、石、ノ、多、丸、  
有、程、れ、こ、用、口、も、者、ト、と、出、渡、程、有、糸、  
天、ノ、社、も、口、フ、石、ノ、多、丸、ハ、千、有、推、夷、ノ、住、舟、  
川、上、と、ミ、千、新、系、も、者、ト、と、有、程、有、也

△  
アツタ

その向、ち、と、多、丸、  
も、や、と、多、丸、

あり、若、所、多、丸、を、系、有、程、入、地、程、有、

ハ、ハ、シ、ケ

山田之系

け、ら、ま、心、程、系、多、丸、と、ラ、フ、イ、ノ、地、程、有、

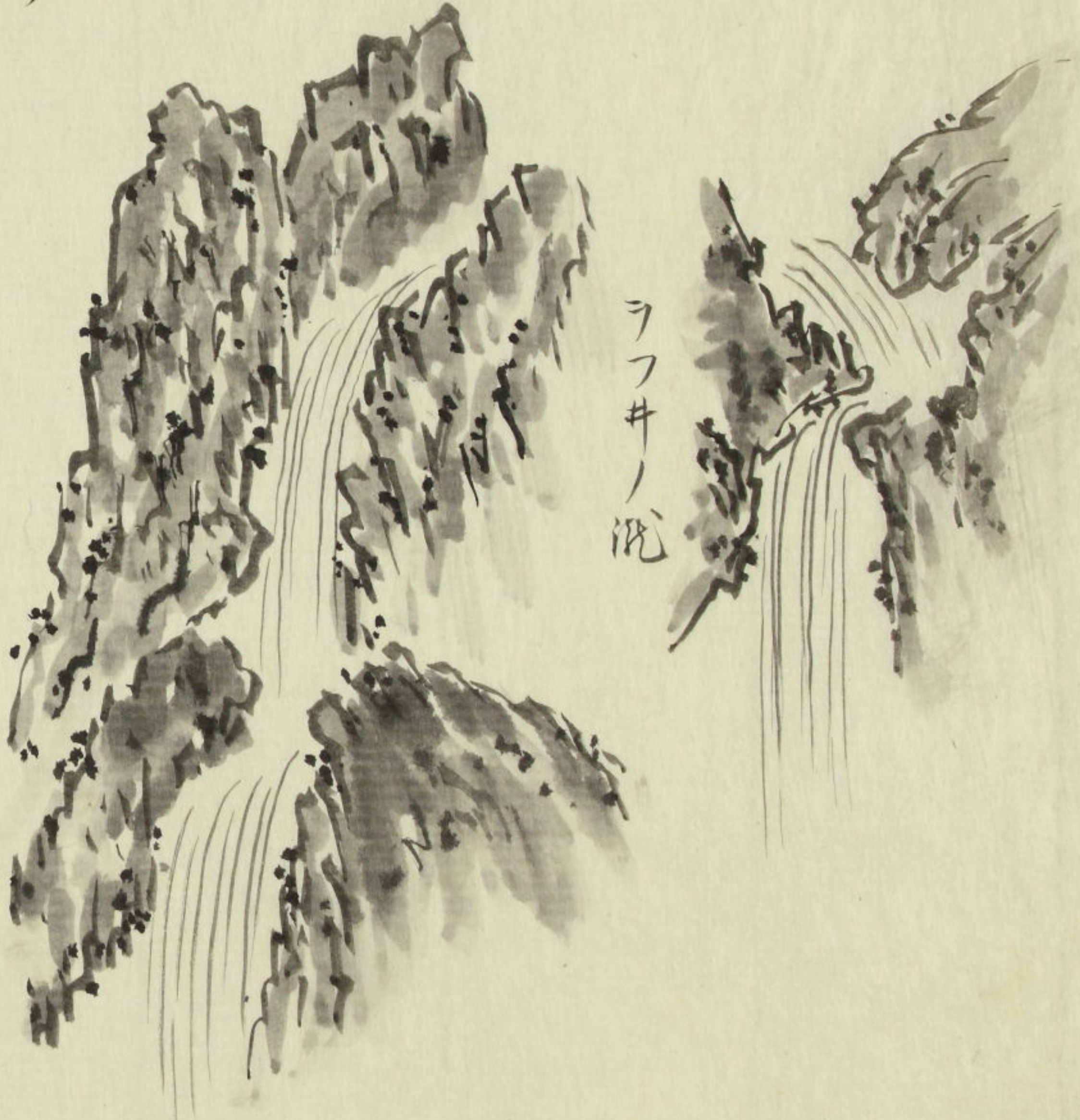
小糸



一丁程マ  
間ニ

ラフ井ノ沈

海  
之  
ア  
リ



○  
九  
リ  
字  
ノ  
三  
ヶ  
ノ  
一

運上名  
伊達丹世乃  
支那ノ古事



之と海上風よりホリ余つて  
之より陸地ナリ

大石崩れより玉をけ運上名を大送敵梅百三ノ年  
家心ノ致夜具の善又字あり一科記ハ押拂ノ序伯  
日限全程ノ子事知州ノ事ハ一知ノ人馬出陸地  
序多事ノ事ノ事ニ一ヶ所ノ推美能ヲカイ至序陸入



尺五寸餘の二寸位入るつづつと此を南人の  
船がそのスレ目付つめ扱を日本に傳へし事なり  
人皇孫のつれつたり

一  
三モ二別

序中三

一  
糸々内

口

抄

可  
ヒラ

從是極事

①

支那  
相之

○

一  
ル々モツへ

道中

極事  
支那

今も此書より早し川にせんく流るるは分ける  
わし海の小位登りて別るる事なり二丁  
其い大木百里も狭く松を全張るの御事道

そのぬめりたるは一室寸毫もなほ此極の難所なり  
四十里余

一  
ウシヤ

①

支那

ラヒラスベツ

支那

三田川

ニ  
ラ子トナリ

同書

支那

けさ小川幾つも流し出ると大木も流る  
水節何しとも流るる大木ノ根切して流るト  
成路の海一先か又波にされ破れおとんか破れ  
砂系其物十抱する十五七なる大木ありし事  
自由なるに移る積りた事なり何程の人を



はるばる

又けるこころ半 舟中より川舟大層なる見物と  
指しあちこちト浮きあがる所ありしむる海ノ  
は舟降り強し

△

ヲニシカ

⊙

まを

今。砂多たつまきうくまおより

メモトナリ

日人お

コタヘツ

二海一 三田り

ニリ井

○

トニ井

日人お  
あはれ

ハホロ

二海一

ヤンギリ

今 二り余仲こまよき船くらのめら

ニラリ

日三り半ニま何も後海運者アリ

△

チクベツ

日人まを

ま後の西風多冷夕刻のまきり一面こし

けさの川多しきさすのうあはれはしむる

と大船のサイニナリ

船のまをノる根ハ大さきのまをヲ十枚花もまを

ふまてり

○

フウレヘツ

日人おまを

まをくまを 又まををくけてトニナリ

△

ウツ

日人おまを



此より成りて方よりウミリ流ニユルヒキヤ一の  
下りて里余り流流り大原ノ一白と  
平泊六七名目ノ流也

テシホ

日人持

此番を伝ふ大いし前と大川流るテシホ川ト  
一海(出口)百石中流る川中流る所  
中こま上流すお水流るふ不知流る水上  
此番を伝ふ二日流りし丹也しよ水流るまふ  
此川上と三根長何十ヶ村也一喜能た  
あつて下りてぬ二天社に候うは舞秋也此  
住也(此トト)も冬も夫合う置止る其  
一人里余二合あてトト

コエト井

又十 高野

けさの石不所定方む定石くやうの流るニ  
のるも穴ノ十石也此也  
今も雨あつたも多しと書るノ幼也と書  
大太ラたきあつてやうな年也  
けさ色也セリハ午房多し又あつては  
何しも多しと書し七ツカイに流る新也  
ラ出ス流るてすも今も多しと書るも  
又十

ソウヤ

又十 高野

此不も流る西山の流るす相流る















天玉<sup>五</sup>余り思ひ出さるうらやみのこゝろ  
大なるこゝろを去り三三三コタニ合大坂船妙力九千石  
ノ親舟カスラつと多う心海何きうと云ふ一面  
をさ方角ヲまひいと久し宗ヤノ後ノ多サナイト  
尸殿の定名被せん心申一舟ニぞん、サケハ船代  
人をも一人もケガ多し、聖り合皆ソウヤ一りた十日  
つとまらぬ心申、それにておし、まゝ、毒  
又おまけ所、そのまア、グニラ、船、おら、おら、  
おら、おら、おら、おら、おら、おら、おら、おら、  
住持たるこゝろ上、おら、おら、おら、おら、おら、  
おら、おら、おら、おら、おら、おら、おら、おら、  
あゝ、おら、おら、おら、おら、おら、おら、おら、おら、  
尸殿の皮の、おら、おら、おら、おら、おら、おら、

柞此唐左路ト尸ハ蝦夷地ニシラ又ニ海ノ  
杉ノ里ノ心、陸、美、り、た、東、ノ、山、路、  
川ノめくは、陸、之、る、る、お、ら、お、ら、  
信ナリ信ノ山セノ風吹ぬ、お、ら、お、ら、  
又ニ、り、子、世、ノ、人、一、千、里、余、入、  
ま、中、大、海、ノ、船、ナリ、十、里、十、七、  
建、心、お、ら、中、ノ、心、お、ら、  
る、心、お、ら、心、お、ら、お、ら、  
阿、列、志、了、大、船、也、田、ノ、陸、  
大、東、油、カ、ス、ノ、船、ヲ、つ、  
お、ら、お、ら、お、ら、お、ら、  
す、お、ら、お、ら、お、ら、  
世界ノ日、お、ら、お、ら、お、ら、





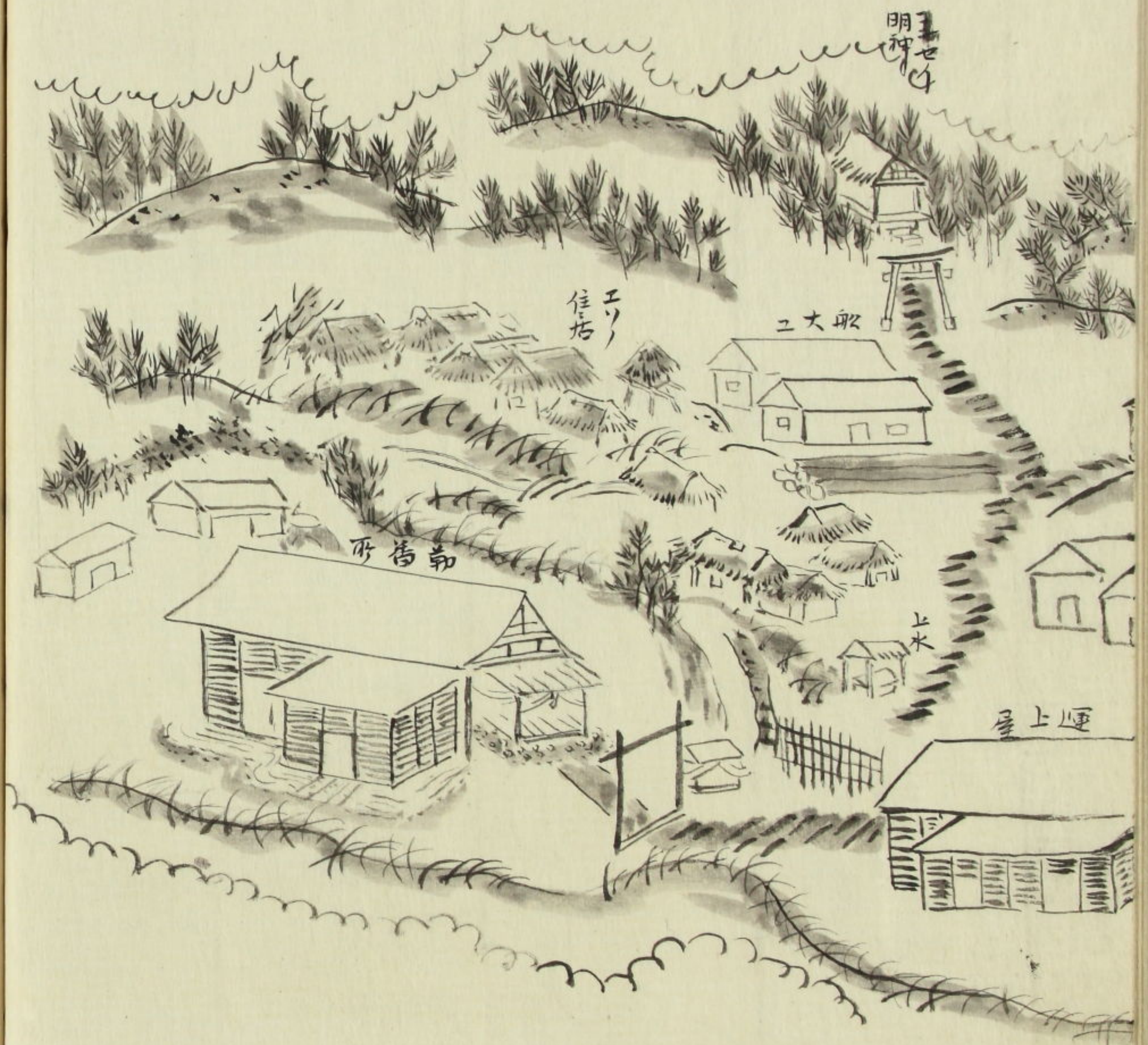






帷夷カラフト  
 ニテ日本人ヲ  
 シヤモト云

一 又相ノ女ノ子筆ハ 帷夷カト遠口ノ甲ニ入墨ハ如ト  
 上トニ内ニ有 押位ニ入墨有ルノ甲ニハ如ト云ハ  
 ホリ多クハ 井<sup>ヤム</sup>控<sup>カ</sup>ハ御ホリ 居ナリモ其ノ用ハ多ク  
 多クノ安ヅシ又モ御<sup>カ</sup>皮ヲ云々 女<sup>カ</sup>ノ甲<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>ニモアガ  
 ラシノ皮ヲ云々 又モ御<sup>カ</sup>皮ヲ云々 女<sup>カ</sup>ノ甲<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>ニモアガ  
 皮<sup>カ</sup>當<sup>カ</sup>ラモモ 大<sup>カ</sup>段<sup>カ</sup>リ<sup>カ</sup>ヲ<sup>カ</sup>ク<sup>カ</sup>テ<sup>カ</sup>モ<sup>カ</sup>ク<sup>カ</sup>ナリ<sup>カ</sup>控<sup>カ</sup>  
 控<sup>カ</sup>テ<sup>カ</sup>身<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>時<sup>カ</sup>而<sup>カ</sup>九<sup>カ</sup>右<sup>カ</sup>當<sup>カ</sup>ラ<sup>カ</sup>由<sup>カ</sup>ル<sup>カ</sup>ス<sup>カ</sup>モ<sup>カ</sup>而<sup>カ</sup>具<sup>カ</sup>ハ  
 エゾト<sup>カ</sup>同<sup>カ</sup>ク<sup>カ</sup>ス<sup>カ</sup>モ<sup>カ</sup>ナリ<sup>カ</sup>  
 一 去ルモ八月魯西五人<sup>カ</sup>ケ<sup>カ</sup>ク<sup>カ</sup>シ<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>シ<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>江<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>控<sup>カ</sup>  
 大<sup>カ</sup>船<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>乗<sup>カ</sup>リ<sup>カ</sup>三<sup>カ</sup>艘<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>乗<sup>カ</sup>リ<sup>カ</sup>運<sup>カ</sup>上<sup>カ</sup>ル<sup>カ</sup>又<sup>カ</sup>而<sup>カ</sup>番<sup>カ</sup>所<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>  
 番<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>ヤ<sup>カ</sup>モ<sup>カ</sup>越<sup>カ</sup>ル<sup>カ</sup>日<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>ヲ<sup>カ</sup>シ<sup>カ</sup>ヤ<sup>カ</sup>モ<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>云<sup>カ</sup>大<sup>カ</sup>ノ<sup>カ</sup>控<sup>カ</sup>  
 東<sup>カ</sup>ノ<sup>カ</sup>方<sup>カ</sup>アル<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>口<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>是<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>大<sup>カ</sup>甲<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>所<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>乗<sup>カ</sup>リ<sup>カ</sup>由<sup>カ</sup>ル<sup>カ</sup>又<sup>カ</sup>  
 アカ<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>向<sup>カ</sup>上<sup>カ</sup>陸<sup>カ</sup>絶<sup>カ</sup>ヲ<sup>カ</sup>越<sup>カ</sup>テ<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>多<sup>カ</sup>ク<sup>カ</sup>モ<sup>カ</sup>而<sup>カ</sup>其<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>一<sup>カ</sup>切<sup>カ</sup>





普西  
大将名  
三ノ  
ロタノスケ  
ボワワイ  
キイナ

多由之取好有と少取物と多由好有と多由好有と  
を原十位と人知ニニコトニ物と言何とる好有  
と好有と一魚西重令と好有と由好有と地所  
信村小等も信村ト好有と四り信北西ノ  
濱流する大木ヲ好有と漢と一雪ヤ氷ノ  
上ラ大こおり何千とと一何と一何と一何と  
まてぬ能ト一果ノめく交り多信好有と種と立  
物ヲ好有と一果ノめく交り多信好有と種と立  
又少西ノ方とる余濱流と一ウラト一処ニ  
地所信村ト一して一丁四角と一南向と一能好有と  
大根イニゲシカビタニ草澤山好有と一何と大根ハ  
四角ト好有と一七ノ寸と一信と一由好有と一日本と一  
いと大根ハ石好有と一信と一由好有と一日本と一

信と長り好有と一トと一信と一昔と一  
水野と好有と一信と一信と一信と一信と一  
キヤと一信と一フラリコ好有と一信と一信と一信と一  
何と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一  
中一大将と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一  
と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一  
上と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一  
信と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一  
信と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一  
組上と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一  
信と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一  
信と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一  
信と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一  
七八尺と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一















大坂人々も金銀してニヤモノニテ好む進まされ少時  
まきこももまきこもまきこもまきこもまきこもまきこも  
おしり

冬籠りの穴籠の形成ら入て尺の古き髪は信る建具ヲ  
まゆりたらえ上り去り作りて男天窓ニテ所  
カニトノ上ニまきこもまきこもまきこもまきこもまきこも  
皮ヲカニ位ニまきこもまきこもまきこもまきこもまきこも  
卵リカニククリラニまきこもまきこもまきこもまきこもまきこも  
まきこもまきこもまきこもまきこもまきこもまきこもまきこも  
表又隔子熱持物ノ裏、紅木面杯所縁ヲ入テ  
運上ルカもまきこも陳羽儀ハ松皮候よりラトカ  
まきこも錦の色ハまきこもまきこもまきこもまきこもまきこも  
赤地綿ヲ苗島ニテ印、ソトニ從目付ニテ印

ソリハの善氣候月好まきこもまきこもまきこもまきこもまきこも  
年四十位ニテまきこもまきこもまきこもまきこもまきこも  
人々もまきこもまきこもまきこもまきこもまきこも

一 当流産物ハニニニラキ一ト次ハ經海産物  
ニス十人婦好も目々くらね産物ハ雜物一ナリ  
年中運上ルカもまきこもまきこもまきこもまきこもまきこも  
ニ今ニまきこもまきこもまきこもまきこもまきこもまきこも  
まきこもアサラニトカノ伸入て候ハ野志  
取ハ野ニ届くて右左カニ山産物中ニまきこも  
海ヲまきこもまきこもまきこもまきこもまきこもまきこも  
アツヤニまきこもまきこもまきこもまきこもまきこもまきこも  
ノカカウニまきこもまきこも

一 長運産物ハ每物もまきこもまきこもまきこもまきこもまきこも















髪色黒く長くヒゲその内ハ養人しくめく服束とハ  
大邊ニ

七月三日けをて一印傳下大將ハ水地居其孫ニ  
當降通判清水平三郎松前ノ口佐士格有  
く之旨印向と知古ハ山丹商部と支那とを  
松前様ノ支那ともありテ口ツコハ口ツコ切振ノ  
半通判有光冬妻登と上ラレモテ(見通)  
兼ニ之旨取付一見問ハハ由所ニ名ニ問  
乙名ハ口ツコノ問(見通)ハ次有テニテカニ斗リ  
當降南州ニ百里ニ近ク日本支那南ノ支那所  
斗ハ百六十七千里有ハ口ツコナリ又スレニグ  
口トテモ口ツコノ小名とも有ハ右ハ口ヲ粗ノ境  
也山丹と又小名傳列モ薩ノハカレタル所ノ

以ハれ松前候山丹交易當降ニテ又ニテアリ  
降ノ外為半一山丹商人ノ持領ナリ  
概夫ニ唐古ニハ漢業斗リ口ツコハ半及  
一リ位ニニテ新出テ村有テ麻ヲ餅ト  
野原有テ之を我々持テテ内ノ麻ヲ自ノ  
物トスル所ノ平日陸西肉斗リ古来之を後  
令ノ付テ交易一半年も有ハ右ハ折折有ハ  
作ルトテ空留居ル一生涯の業也  
衣袋ハ古キ練ノ半天位と有テハ  
白本條ノ古キノ赤條本條ハ以後アサラ  
皮色も皆一色ニ神ハ寸位丈沙人寸寸位  
山丹商ノ古キも有ハ皆其物有ハ物ト  
ニ麻ハ養人持テテ大日輪



一 七月入テ多物是月一日ハ日三三日七日方  
山セノ風之七七日ハ出船トテ用急之ニラ又  
と多ク所帰リテ得ナリ 大七月七日大風雨  
之是存之成

一 左ノ伊豆柳京西家ニ移ナリ 壬午年と  
柳京今ノ壬午ハ伊豆ニ移テトワキハ殿橋  
P 中ニ柳京候ノ物入程ト積ル程

一 柳京蝦夷地ニ去ル海川多ク禽獸心付セト  
ハ海河多ク相増ハ明レモ之程川ハ川尻  
大木相増タラレ水ワカヘ又地<sup>カ</sup>動<sup>カ</sup>テ水也ハ何程  
阿波<sup>カ</sup>直<sup>カ</sup>テモ播磨<sup>カ</sup>一信<sup>カ</sup>後<sup>カ</sup>亦<sup>カ</sup>多<sup>カ</sup>之<sup>カ</sup>路<sup>カ</sup>  
逆<sup>カ</sup>出<sup>カ</sup>ル<sup>カ</sup>多<sup>カ</sup>本<sup>カ</sup>茅<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>育<sup>カ</sup>柳<sup>カ</sup>京<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>物<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>多<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>  
事<sup>カ</sup>加<sup>カ</sup>付<sup>カ</sup>ハ<sup>カ</sup>大<sup>カ</sup>成<sup>カ</sup>ル<sup>カ</sup>非<sup>カ</sup>然<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>多<sup>カ</sup>之<sup>カ</sup>蛇<sup>カ</sup>虫<sup>カ</sup>多<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

柳京<sup>カ</sup>少<sup>カ</sup>シ<sup>カ</sup>タ<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>是<sup>カ</sup>柳<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>事<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>依<sup>カ</sup>付<sup>カ</sup>ハ<sup>カ</sup>思<sup>カ</sup>シ  
カカム井<sup>カ</sup>根<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>神<sup>カ</sup>ヲ<sup>カ</sup>カ<sup>カ</sup>井<sup>カ</sup>殿<sup>カ</sup>孫<sup>カ</sup>ヲ<sup>カ</sup>日<sup>カ</sup>以<sup>カ</sup>能<sup>カ</sup>シ  
柳<sup>カ</sup>京<sup>カ</sup>思<sup>カ</sup>シ<sup>カ</sup>ル<sup>カ</sup>柳<sup>カ</sup>ヲ<sup>カ</sup>云<sup>カ</sup>山<sup>カ</sup>ハ<sup>カ</sup>何<sup>カ</sup>白<sup>カ</sup>電<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>家<sup>カ</sup>有<sup>カ</sup>一<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>  
大<sup>カ</sup>川<sup>カ</sup>上<sup>カ</sup>ノ<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>家<sup>カ</sup>多<sup>カ</sup>之<sup>カ</sup>亦<sup>カ</sup>下<sup>カ</sup>リ<sup>カ</sup>果<sup>カ</sup>然<sup>カ</sup>ス<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>  
尾<sup>カ</sup>ノ<sup>カ</sup>支<sup>カ</sup>能<sup>カ</sup>シ<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>又<sup>カ</sup>川<sup>カ</sup>上<sup>カ</sup>百<sup>カ</sup>里<sup>カ</sup>亦<sup>カ</sup>有<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>  
往<sup>カ</sup>往<sup>カ</sup>登<sup>カ</sup>ル<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>能<sup>カ</sup>取<sup>カ</sup>ル<sup>カ</sup>川<sup>カ</sup>上<sup>カ</sup>ノ<sup>カ</sup>方<sup>カ</sup>多<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>  
也<sup>カ</sup>作<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>東<sup>カ</sup>ノ<sup>カ</sup>口<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

柳京<sup>カ</sup>候<sup>カ</sup>ノ<sup>カ</sup>支<sup>カ</sup>能<sup>カ</sup>ハ<sup>カ</sup>東<sup>カ</sup>海<sup>カ</sup>岸<sup>カ</sup>ノ<sup>カ</sup>一<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>  
ワ<sup>カ</sup>コ<sup>カ</sup>西<sup>カ</sup>海<sup>カ</sup>岸<sup>カ</sup>ハ<sup>カ</sup>ポ<sup>カ</sup>ロ<sup>カ</sup>タ<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>門<sup>カ</sup>ヲ<sup>カ</sup>向<sup>カ</sup>ス<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>ク<sup>カ</sup>口<sup>カ</sup>  
住<sup>カ</sup>兵<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>ス<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>ク<sup>カ</sup>口<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>日<sup>カ</sup>和<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>一<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>  
似<sup>カ</sup>タル<sup>カ</sup>本<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>テ<sup>カ</sup>流<sup>カ</sup>業<sup>カ</sup>取<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>柳<sup>カ</sup>京<sup>カ</sup>若<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>  
之<sup>カ</sup>後<sup>カ</sup>柳<sup>カ</sup>京<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>

一 七月ハ日クニニタニラ也<sup>カ</sup>毎<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>テ<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>ラ<sup>カ</sup>又<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

柳京<sup>カ</sup>支<sup>カ</sup>能<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>  
ヲ<sup>カ</sup>ロ<sup>カ</sup>ワ<sup>カ</sup>エ<sup>カ</sup>ノ<sup>カ</sup>境<sup>カ</sup>



悪友二十里中ニシテ口ノモトニリトP仲ニカニ  
翌九日十里中ノ舟ニシテ仲ニ黒キ一帯  
是を船路トシテ多クニ國船トP呼ビソコ  
キニツク日中ノ神ノ信心イタス長コト國  
庭ヨキ果樹ノ少ニシテモ日本ノ多ク出テ  
又々彼舟多ク又々何成事ヲ仕出スル侍  
P出シ由緒ニシバ中程ノ魯西亞ノ大船  
クニユコタニラキ行ケル所ハ所々セツ  
又ニへ着揚子ヨリ又ニユコタニシテ  
長ノ如ク三日ニシテ波船上陸ニテ  
如大將始メ何シテ多クヨリ  
波トP加陳ノ色又ニ國船トP  
略ヲモ休タゴ杯スノニ程舟航  
長海ノ舟トP

此ヨリ安ズルニ五月中(正)多ク船モ長サキ  
舟ノ船大旨舟船出後多事  
舟ノ船航トシタリ

一 七月十日雨ノ日村松原ハリウヤ  
終りヤン 十二日始テ上ノ  
多ク七夕ニシテ多事世界中ニ  
夜々々々トシテ 今の上  
物ノ出心西ノ方ニシテ多事  
トガケ上ニシテ多事  
斗ヲ出シカモのめクニシテ多事  
斗川東ノ舟モ破此川ニシテ多事



向ノ方ニ入リ陸ニ大水底ニ多クありまよる海  
苔ヲ取リ拾フニ思ハレテ一面ニ行キテ煙ニ燒  
ク風味ナシ一海草ノ味ニ似テ味ハ苦シ  
スレバナシ一土地ノものニ毒トテ治ラン  
事ニ候陸ニ行クのみ一されテ一人も由ル  
事一菊人等も浪山治シ干テ茶飯とも  
侍衆ニ拾フ事知レシラヌト西海草ニ別  
トゴアサラニ多ク見ル録も多ク又能  
目ニ此草見候候ノ侍信々菊人公任  
テ治ルヲ拾目ニ多ク申一多ク梅  
オレテ治カモメニ  
オチ七月十七日ノトゴザキト  
メ一羽ト鴉ニ羽トクノ女ス  
多ク拾フ事知レシラヌト西海草ニ別  
トゴアサラニ多ク見ル録も多ク又能  
目ニ此草見候候ノ侍信々菊人公任  
テ治ルヲ拾目ニ多ク申一多ク梅  
オレテ治カモメニ

もオコウ味も古何一海草ニ多ク  
オチ拾フ事知レシラヌト西海草ニ別  
トゴアサラニ多ク見ル録も多ク又能  
目ニ此草見候候ノ侍信々菊人公任  
テ治ルヲ拾目ニ多ク申一多ク梅  
オレテ治カモメニ  
オチ七月十七日ノトゴザキト  
メ一羽ト鴉ニ羽トクノ女ス  
多ク拾フ事知レシラヌト西海草ニ別  
トゴアサラニ多ク見ル録も多ク又能  
目ニ此草見候候ノ侍信々菊人公任  
テ治ルヲ拾目ニ多ク申一多ク梅  
オレテ治カモメニ











く子声くうラドレ

乙名ノ舞々おぬ天宮唐人の  
麻上やト云

治承八水取れたたり抄一侍衆も二五十日多子  
由よりいこ山せの世風多きお逢成りてあかき  
二ふまうおべくせんかきりせん古くは流石日と船路  
得信スレ船路大逢成も二百十日閏七月九日  
まより流海スレこめて流海なりとて多か今下  
今も世風不次をる者多き年ヲ改令下も侍衆  
抄して日とヤウまきるのナリ

一 七月廿名乙名相の(中河ヲ下又夜右ノ相ノ其  
赤地錦ノ赤おぬヲ止を言うとらラ乙名ヲ抄て着  
中河ヲ裁きて後舞ヲ以多ス二船ヲ開キ上ウ  
こと抄して舞相ノ等ハ赤人(幾程しともめて  
より抄押合三上ラケルく也)

七月廿名是も係入ラぬく今も二六カニキロアバ











アーわうしト

○

千正トニリ

又十 彦丸

ウツキマヤウ

△

ヲニシヘツ

又十

改定御々ニラヤ 白キスノ形如お出長録の記の  
曾目多々おめし



○○

オルフツ

又十

ハツシクニ善後面あり大風面トお出以て大面  
中ニ風出海ニ荒波ニ考まきまきトくハ  
七有能面ありハツシクニ又ニ存ト風  
面ありニトニモはナシテハ能事能事ニ  
お出ニそのお出ニハツシクニ又ニ存ト  
ハツシクニハツシクニハツシクニ又ニ存ト  
ハツシクニハツシクニハツシクニ又ニ存ト

△

ヤムワカル

又十

別ら善後風ありハツシクニ面ありハツシクニ  
白風大能事能事ニハツシクニハツシクニ  
ハツシクニハツシクニハツシクニ又ニ存ト



漸く積火を以て大塚の中より出て来る

○ 三ヨ十イ

又十

九日ツチ子と云ふ十二丁新カモ井トト石山の  
出せしこせしう口を離れしとこにてせしめしう  
すの古のとせしめ

△ フレタロ

又十

是の山と云ふは我々の山とて然る毎斗り  
はけれしと云ふは伊那の山にて海にくだる  
こころの事

○ 上サシ

又十 志を  
こころの事

能く経る所の情不むるよき事なり  
是の山と云ふは伊那の山とて海にくだる  
こころの事

△ トラミベツ

又十 志を

トラミベツの事

○ 千カフトム

又十 志を

むら山の中を尋ねりしと云ふ事なり  
十日ツチ子と云ふは伊那の山とて海にくだる  
こころの事

△ フレベツ

又十 志を

こころの事







代科 甚くをよらぬありし事 毒を心候士  
新平トテ仁お合らしておづり 苦る十文洞  
はゆえ

○ <sup>四半</sup>モニベツ

又十 徳馬が  
いふにやそや知

丁字のへらに面ありし一斗り候  
モニベツ 二斗り

川上右候申んモニハツ石トテ其手とるをこらて  
よ齧や申ししとすき通ん名もナリ 越後他石  
まの

△ <sup>四半</sup>ヤニエ

又十

ヤニエ沼を申す一斗り候

コムケ沼口候しき申す  
又ニ斗り候しし大沼有し七八里中 彦手不  
三斗りトテ沼向いしこころト 林山斗り沼こ  
アサラモ又縁もせんとトテキ又かき貝の大成  
者沼の側候しし者 砂多き及かき候し  
れを多し押さへし ぬれし処多し 彦  
手政斗り一斗り候

○ <sup>四半</sup>ユウベツ

又十 歳書

ト吾をより平山及切は登り下りし沼原の邊  
凡三斗り申すソウヤが彦犬を近付候んはとの  
流しハ皆ラヨキ流しハ彦手かみ何ト見し内  
彦犬トテ介白星の丸丸入し 一斗りを所候



七分湯にト息出(湯)して得病ん時アキレ  
む及も思ふ日海に入るが宛もソヨギニ  
物にナリ

△  
ワツカ

又十

板屋ノ  
少海也

けき香水ありて宛も枯く入るが宛も思ふ日  
吾も凡及も水ありてあり

○  
トラコロ

又十

少海也

毎る所へてありて宛も思ふ日又入るが宛も思ふ日  
月合兼古宛のき出宛すき宛板ノ上  
所へんソヨギ体

△  
ハトロ

又十

今夕方早ク泊りて洗タクせんと宛も思ふ日  
亦之香水ありて宛も思ふ日又入るが宛も思ふ日  
雨多き大島迄て宛も思ふ日又入るが宛も思ふ日  
雨多きありて宛も思ふ日又入るが宛も思ふ日  
ナリ古宛之香水ありて宛も思ふ日又入るが宛も思ふ日  
大録ヲ撰くも却て古宛も思ふ日又入るが宛も思ふ日  
勿も不習下りて古宛も思ふ日又入るが宛も思ふ日  
陰に味

○○

○  
Pハニリ

又十

ナカハニリ

又漢書にも多能撰書少宛宛も思ふ日又入るが宛も思ふ日



小ノ海をより下あふ

△ フレト井

十石の石をより出せし山紙抄一絶集に下り  
けしをより二絶集をより海河くシロシヤ  
よりス通し一モノスゴキ斗りこそ

○ シヤリ

又十人雪所  
支能三去

至り能女をより定の出せし海河くシロシヤ  
舟入をより余前二川舟舟一今余前二意ノ  
小山二余前ノ社立去飛ト細や出と希意を  
至り見よりナリ松糸候ノ幕一西ニ出  
あり又事トト信より多座より松糸屋と候

又ハ後月廿二日少人十人何十人ノ回勢  
座安多し料也向も至り竹等ノ月十日  
付所ハ至りよりナリ舟舟ト山入ニヤリ  
強トトト多強信ナリ平山口折女何十里  
大木ニシニこタレニ入何多年トも不切ありナ  
タラシ一西ノニサレラガセ下多ハ絶集ト多中  
日走ヲ不見也あるハ河口折ナリ大木ヲよりて  
石多中ニ強信あ今ハナリ余ト絶

△ ツフランケウシ

大林中ノ候老ヲ  
かけは

とこよりモ大木ト林中

○ カム井ノニヨシ

日林中ノ候老ト  
強信多ノ中ニ強信  
トナリ



けねの夜陸絶ヲ折リテヲ熊の如き多トア用心ナリ

△ <sup>ニリ</sup>シヤリライラニニ

口折ニ也

○ <sup>ニリ余</sup>ワツカライ

本居クナヤシも本根も  
皆本ノ皮ニ谷川の割

△ <sup>ニリ余</sup>カンチウシ

けねの如く山ニ  
大木モカニ本居ハ前ノ  
区

一リ申リテして多ク先本ハ之バ本トク多クニ  
ノ心也孫ノ志能クなく出さずニ跡止山ニあり  
ニニヨリニリヨリニニニ

○ <sup>カリ余</sup>チウエラワタラ

本居クナヤシ前ノ通リ  
夕刻ノ多ク陸絶

本居ノ夜多ク大木多ク本居ニ一高ニ  
雨具ニ高物多ク心通るも本居心陸絶多ク  
善美トトノその朝共以陸絶多ク  
タラリニフ

△ <sup>四リ余</sup>ワナシ

本居本  
本居クナヤシ多ク  
ニテモシ  
山ニ所又ニ大雷  
ニテモシ

トイヒラ

山少休

此ノ如ク山行多ク本居本根ノ心通るも  
本居心相鼓多ク山行任多ク本居代  
本居心相鼓多ク山行任多ク本居代  
本居心相鼓多ク山行任多ク本居代

今ノ山行多ク山行又小川行多ク本居多ク  
山行



〇〇

シベツ

又十番

けきんはけかきく廣西のこ飛越多の細い堀井戸  
三丁余皆作り糸ブ糸玉の社曜其れも多うある  
けきん一日還る程の如信國月喜書心なり

△

コ井ト

番を

口何の書るをさう川下り半あま海に三丁  
地時より流るれん二枚の多きより三丁の内外は  
月旦入るめくは道通一歩のきこも三丁と  
蚊のしアウウシベツと十里命なる

〇ノツケ

又十

〇

ノツケ

又十

そもよき漢陽の古候と也の初味口ある目ノ不  
触ラあき味ト云ハエゾ一高く通稱ナリ臭見を食  
はるノ大ノスノめハケ所五柳程も一け運上  
るも好て日本に如クスル支能ノ女房之年四五  
けきんハ一丁余屋中けきんは一丁屋中平地  
そが東ハ大海ナリシベツヨリ子モ口とハ軽ノ如信ト  
ア砂子の出芝あるも亦一蚊もかき

△

ニシベツ

又十拍

軽ノ如信とも入江ノ落口如信ナリと一  
一丁半多ありはそが付ノ枝ラおれは多く扱  
拂くは







○ 二り余  
アツケ

日人山の文を打

よき世なり昔文化之初ノ  
公儀の文能く帝寺一寺の建深宗の景云  
山國古寺文化二年の鎌倉五山と稱す和書  
所育の意世有惟夫石多之令寺あり其信ハ  
柱と木多之世世ありとん時多此ん不之  
立後之三二り半中し江ラ云切

○ 二り半斗り  
セニホウジ

スリと打  
兼尾給云

坂ノ堂り口ニ書る所山一也其木をラケ油也  
峠ナリと云難世山上言も沼深ク沼とて  
此は七月十日アツケ之ヨウの陰人一人あり其人  
の少く家来を人病を云と云り山中あり其物也

△ 山五り半  
コニ。プム井

音元と打  
日人打

箱館といふ我んニ其内を人病死ス大文あり男ニ其  
エリと云と成列也と云一曰云と云也  
四つ信トが多クアツケ之寺の地内ニ三つの龍  
多し大ナ日本龍の古也其多申さる處ニ本龍ノ  
尾ノ中セ申く色ニ赤け茶白ノ一也

○ 四りハ  
クスリ

和歌  
子也尾給云

と云よき世なり和書云五の意信有惟夫家  
多し凡百折余も之と云東海岸有目貴ト云  
其出て舟行しと云世に二り余地ありと云  
伊勢守留及水野長右衛門ト云り其物也

△ 十り余  
シラヌカ

日人打



従ふ能はずと云ふも多しスリヨリ漢多し  
凡そ道に到る者一今も大甲今も処十三里余  
も有ニリ余を以て古蹟を御前より川多し八月  
二日とも在る也タイ相も今兼在り以て此  
書

○ 甲子トP中を  
シヤクベツ

日人持

合ふ能はず又歩行後之も歩行上より  
後に出せし山にやんすた余も味も  
ニリ余もして十四五丁も味も多し

△ 甲子  
ヲコベツ

日人

甲子 此等 必 兼 人 数 大 少 斗 り  
少く甚難何より言ふもエゾ斗り今海内  
あり如くも今ニ斗り難多ニ斗り  
少く少く多し今兼人候の心計新井田  
之も多し先く今印禁也今兼人候

トカチベツ 大甲

○ 甲子  
ヲホチナイ

相敏 福徳多七

此等 今 兼 人 候 心 計 新 井 田  
三斗り一斗り四斗りの心計又行日計  
一斗りケモ多し多し申る向山と南向  
日多し今兼人候多し今兼人候  
甲子 道上一日悦心者今兼人候



て上止つてこれぞ毒多し

△  
ユウト四日

日人

沼底石を海へ落して其毒を

○  
トウフ井二日

日人

ハツシ此毒を知りて自由を毒なる陽を  
ぬく夜合に討つて夜合を合衆の  
やせん毒をせん

ヒロキヘツ 石川ノ古川ナリ

△  
アイラシム三日

日人

心毒を換てし

トヨイヌ川 舟り

又ツカヘツ 日

柏木と木斗り多しニ抱余と木を卯ラ  
此毒を毒ラせん沼にカセたり  
けさむも多ト

今もよき

○  
トカチ甲

無桂作りサシカモ二尺五寸位七ハ  
三人を殺す桂板ノ厚七ハ  
厚板多し又リ光ル  
も風多し木無桂ノ厚板  
位可き山々桂木多し

ヒロラ川 荒川名ニ流ありワタシ

ラシメラベツ 二般日 荒川















三べつハ川ノ各川ノ多岐ニ委んぢて糸田  
 ナリ何レハ海拂ても雨申りて空弁ハナリ  
 雨ハ大なる波をスレ川水暫カク海  
 至リ難クハ波大川を流れて空ニ波を  
 多ク大小三つの峰つゞきりくノ空川  
 物スゴキ斗り雨ハ中くつゞく一日古鏡  
 空波流く七つ中ハ心著

三  
 シヤハニ

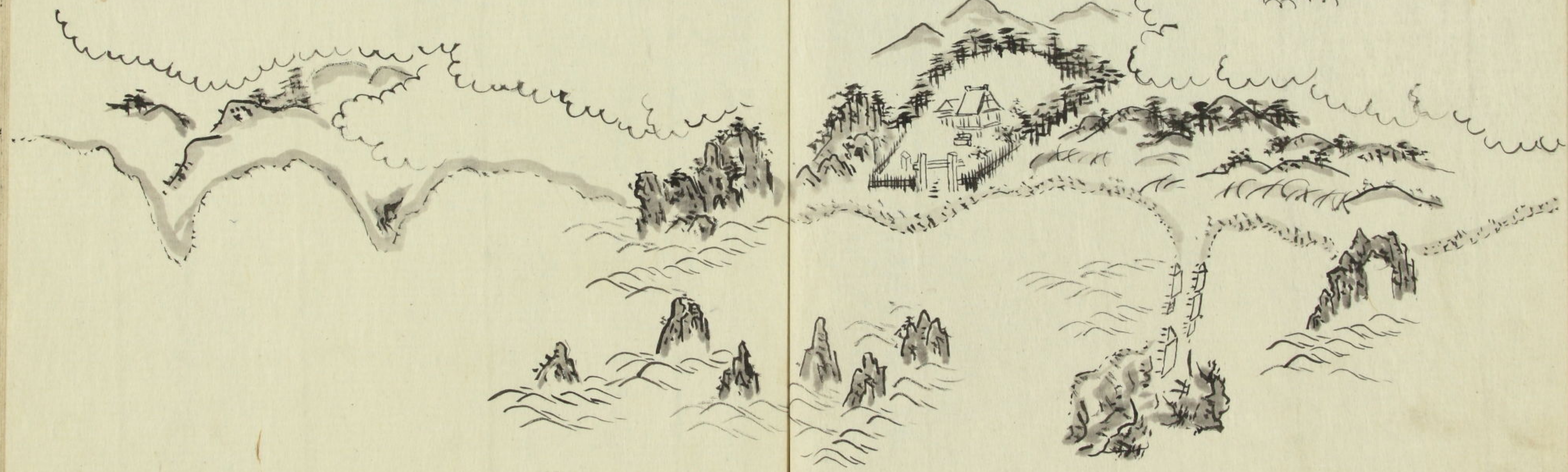
今  
 絶  
 絶

言ノ一寺者  
 御御山屋澤寺等謝院  
 文化二年ヨリ 御公儀ノ所持ニ建

東樞夫ニテ寺ノ一ナリ  
 新田屋東海岸ニテ一ノ絶景

















ムカワベツ 赤坂

大川 利持川位

アツニ川 赤坂

ムカワヨリハノ方彦キヨリ目モ由野赤也ヨリ  
西海岸スカリニウセケ申ノ平地ニウセカリ  
ユウフツツヨリ 五ウフツヨリ 五七里ニチヨリ  
ニヨリ臨ル川 ユウブツノ先 紐ノ隙ニ多ク  
七ヨリニ運上ル者山田ニヨリ

○ ユウブツ

山下山田  
山田五平  
支那人今も坊

ユウブツノ方彦キヨリ目モ由野赤也ヨリ  
西海岸スカリニウセケ申ノ平地ニウセカリ  
ユウフツツヨリ 五ウフツヨリ 五七里ニチヨリ  
ニヨリ臨ル川 ユウブツノ先 紐ノ隙ニ多ク  
七ヨリニ運上ル者山田ニヨリ

漢語ナリ

ハシノ川ノ昔村ノ下ニ池也

平目サシニ 紐ノ子ニ大根ヲヒ  
ユリガノノニツカ

あしきニメニテ(ガケ)燧山ケムリニヤヒルニヨリ

△ コイト丑

ヤウ

ユウフツヨリ村後キノ指ニ深キ多ク秋ノ末ニ  
今も多ク由リニヨリニヨリニヨリ

○ ミウライ

山下  
野原又赤  
支那人今も坊

ユウフツヨリ村後キノ指ニ深キ多ク秋ノ末ニ  
今も多ク由リニヨリニヨリニヨリ

ニキウハツ

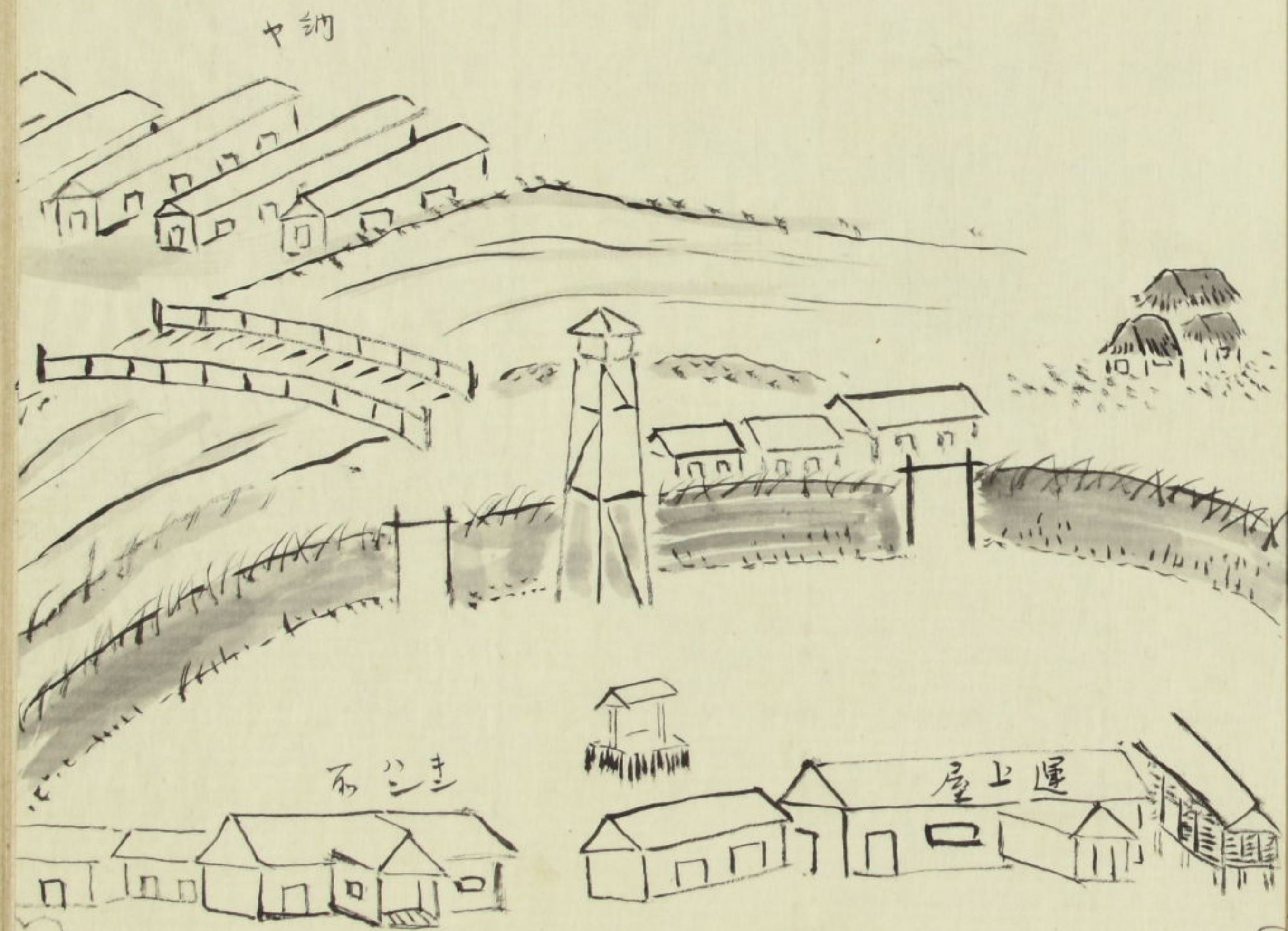
赤坂







南



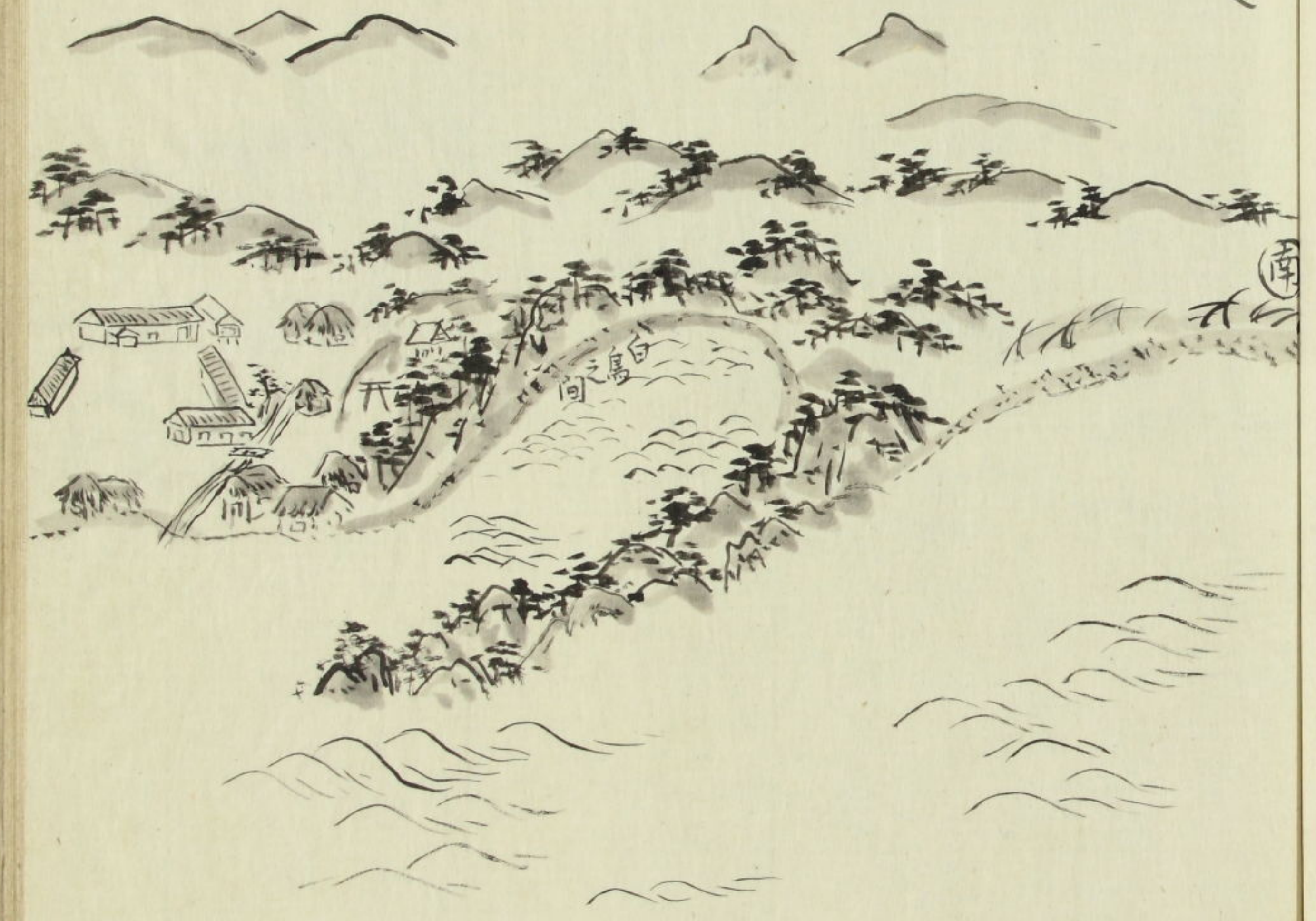
南に介白子川系ノ一トモ上物ありて其板  
 上より尾端おびるなりと十石ありす時月ノ  
 心出帆十三里ハナハ以能事ホハ心算久々ニ目  
 家送る事し知一先夕別々あり  
 け中々煙山もたぬく尺ハ一トモ

エウブツ運上屋合所新系 新書所  
 お前坂下山田文右馬坊

往ニス昆布  
 イワシノ場



南州三四十里之  
入江魚渙多

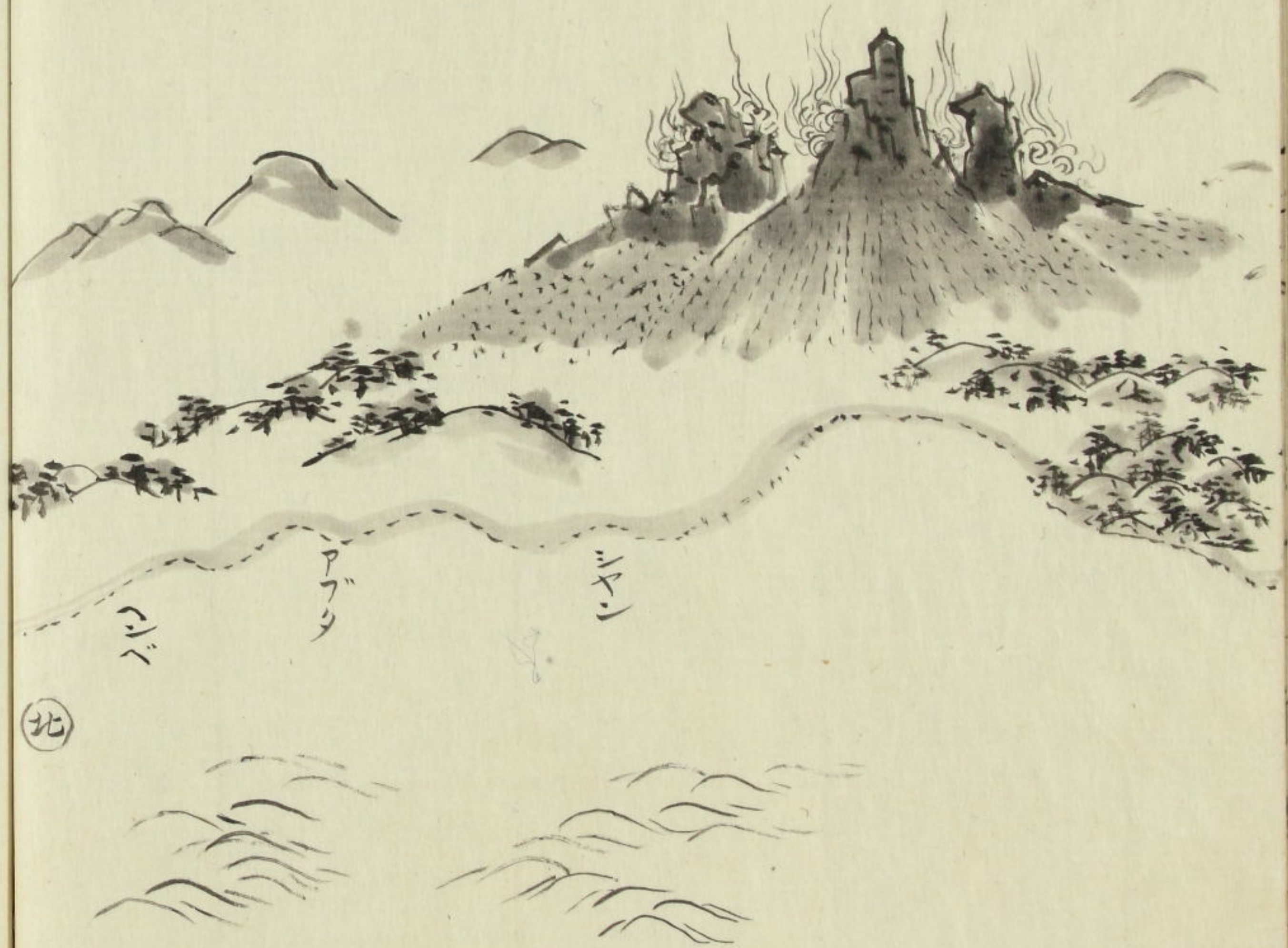


東那夷モロラニヨリ  
鷺本、十三リ沼地





白ノ燒山



白ノ命ノ所ニ能ク修得ノ淨土ノ一寺ニ其地ヲ如來ノ  
 安置ス甘ミ佛ノ寺ヲ耶毒ナリ其地ノ水ニ三日ニ  
 大井ニ煙出ス之氣十日斗リ之皆凶毒ノ心寺ニシヤニ  
 べノ寫ス昔古白山ハ相根ノ地獄トシ修得ノ泥沼熱  
 火ニ交ミヤリ指ノ如ク三月十日大ヤケノ如ク其  
 方一山ヲ出スといトム一處ニ山ヲ出スといハ不思  
 一ノ如ク此ノ山ノ如ク修得ノ山ニ其ノ外ニハ嶽ノ山  
 江ノ出先ノ山ニ其ノ絶スといリ云々其

陸地ヲ曰ク

ニリ年エ  
シヤシ

ア  
ブ  
タ



ヘンベ

レフシケ

ライハ

ラシヤンベ

シラリカ

ヤムクシナイ

落部村

能島本村

河内傳  
修成屋三平中  
ありたる音とありし音とあるはつ時  
は是れ大なる  
匠心

赤村

けきとち推考家古新  
斗りあり

△ 宿中道

古新家と細かき  
ととあり宿中嶽ノ語大  
本ノ林中斗り

駒ヶ嶽と赤村海中（池と音ハ焼山ナリ）  
を大山と名付宿中嶽大石深ヲ下りて  
平地へ出ん峯々箱鼓ヲ眼下ニ見（むら景ナリ）

トラゲ  
山領下村

け時分大野を正ニ斗りハ  
甲地ナリ

○ 大野村

河内傳  
池田元 字三信

右夜下より少く方山と南向と大野河川と  
そ介松糸ト名付宿中嶽ノ地ハつらと宿中斗り





一りち五丁  
有川村

印立大良  
是年より信長に  
お成



箱鼓

印陳瓦前紙の切符  
目録を以て著

時より永七郎の月吉

佐後半信  
白鳥守右衛門

是の事より上りて大文字の夜より西へ  
之後其處の魯西並に其人多く  
法に及ん市中に出入り後悔夕刻に陸士  
市中古院ヲ見物す 相和候に後人  
由り返る事あり日三十一日陸士目録

少人印事定印事信後二二年一日の代り  
心出程々心定なり又船事所ハハ口ニヤノ  
天文方ニ外役人上り是目鏡大成候書物  
之外指針板板の如し何し事なきは是候に  
陸士里候何れ多し是に以て是に候に陸士  
十り宵に五丁に於て候に皮背板板の毛  
赤色より守事候に信切なり  
九月朔の向山(宮)二日にも是の古  
役人候に信に候に是の如し大井三千二百  
トモノ事ニ候に是の如し大井三千二百  
古井十六挺に大井候に是の如し大井三千二百  
玉ハ五ノ目録に候に是の如し陸士里候に



厚くも七人少くも五人目也ノモミノ本は  
右モミノ本トツ思ハ惟夷地ハ印も本も  
田<sup>イナ</sup>麦<sup>イナ</sup>新<sup>イナ</sup>方<sup>イナ</sup>梅<sup>イナ</sup>栗<sup>イナ</sup>板<sup>イナ</sup>を<sup>イナ</sup>桂<sup>イナ</sup>ト<sup>イナ</sup>口<sup>イナ</sup>カ<sup>イナ</sup>バ<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>何<sup>イナ</sup>本  
種<sup>イナ</sup>も<sup>イナ</sup>多<sup>イナ</sup>く<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ノ<sup>イナ</sup>本<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>家<sup>イナ</sup>作<sup>イナ</sup>り  
亦<sup>イナ</sup>同<sup>イナ</sup>本<sup>イナ</sup>具<sup>イナ</sup>根<sup>イナ</sup>板<sup>イナ</sup>も<sup>イナ</sup>多<sup>イナ</sup>半<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ノ<sup>イナ</sup>本<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>カ<sup>イナ</sup>ハ  
白<sup>イナ</sup>キ<sup>イナ</sup>カ<sup>イナ</sup>ン<sup>イナ</sup>バ<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>何<sup>イナ</sup>し<sup>イナ</sup>山<sup>イナ</sup>も<sup>イナ</sup>ニ<sup>イナ</sup>シ<sup>イナ</sup>く<sup>イナ</sup>也<sup>イナ</sup>の<sup>イナ</sup>本<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>  
皆<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ナ<sup>イナ</sup>リ<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ノ<sup>イナ</sup>本<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ト<sup>イナ</sup>ガ<sup>イナ</sup>ノ<sup>イナ</sup>本<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ト<sup>イナ</sup>ハ  
不<sup>イナ</sup>リ<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ノ<sup>イナ</sup>本<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ト<sup>イナ</sup>ハ  
ア<sup>イナ</sup>カ<sup>イナ</sup>リ<sup>イナ</sup>也<sup>イナ</sup>の<sup>イナ</sup>本<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ノ<sup>イナ</sup>本<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ト<sup>イナ</sup>ハ  
モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ト<sup>イナ</sup>ハ

階子一段下りて学文不好者皆美于人斗り札  
物<sup>イナ</sup>も<sup>イナ</sup>多<sup>イナ</sup>く<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ノ<sup>イナ</sup>本<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ト<sup>イナ</sup>ハ  
り<sup>イナ</sup>解<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ノ<sup>イナ</sup>本<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ト<sup>イナ</sup>ハ

古成電多抄也<sup>イナ</sup>又<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>バ<sup>イナ</sup>の<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>別<sup>イナ</sup>カ<sup>イナ</sup>ス<sup>イナ</sup>テ<sup>イナ</sup>ラ<sup>イナ</sup>抄<sup>イナ</sup>、  
燈<sup>イナ</sup>中<sup>イナ</sup>大<sup>イナ</sup>抄<sup>イナ</sup>食<sup>イナ</sup>ト<sup>イナ</sup>ス<sup>イナ</sup>ル<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ハ<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>物<sup>イナ</sup>ニ<sup>イナ</sup>テ<sup>イナ</sup>不<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>ラ<sup>イナ</sup>  
抄<sup>イナ</sup>も<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ノ<sup>イナ</sup>本<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ト<sup>イナ</sup>ハ  
衆<sup>イナ</sup>百<sup>イナ</sup>抄<sup>イナ</sup>カ<sup>イナ</sup>サ<sup>イナ</sup>リ<sup>イナ</sup>也<sup>イナ</sup>二<sup>イナ</sup>段<sup>イナ</sup>下<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>て<sup>イナ</sup>牛<sup>イナ</sup>羊<sup>イナ</sup>ノ<sup>イナ</sup>物<sup>イナ</sup>也<sup>イナ</sup>  
不<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>ラ<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ノ<sup>イナ</sup>本<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ト<sup>イナ</sup>ハ  
之<sup>イナ</sup>後<sup>イナ</sup>下<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>て<sup>イナ</sup>掛<sup>イナ</sup>レ<sup>イナ</sup>ド<sup>イナ</sup>シ<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>不<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>ラ<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ト<sup>イナ</sup>ハ  
ト<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ノ<sup>イナ</sup>本<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>ミ<sup>イナ</sup>ト<sup>イナ</sup>ハ  
水<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>運<sup>イナ</sup>レ<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>石<sup>イナ</sup>入<sup>イナ</sup>候<sup>イナ</sup>也<sup>イナ</sup>大<sup>イナ</sup>抄<sup>イナ</sup>多<sup>イナ</sup>也<sup>イナ</sup>小<sup>イナ</sup>抄<sup>イナ</sup>多<sup>イナ</sup>也<sup>イナ</sup>  
上<sup>イナ</sup>の<sup>イナ</sup>後<sup>イナ</sup>下<sup>イナ</sup>り<sup>イナ</sup>て<sup>イナ</sup>ケ<sup>イナ</sup>ロ<sup>イナ</sup>ク<sup>イナ</sup>テ<sup>イナ</sup>古<sup>イナ</sup>成<sup>イナ</sup>袋<sup>イナ</sup>也<sup>イナ</sup>一<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>あ<sup>イナ</sup>け<sup>イナ</sup>ハ<sup>イナ</sup>二<sup>イナ</sup>段<sup>イナ</sup>  
下<sup>イナ</sup>の<sup>イナ</sup>所<sup>イナ</sup>と<sup>イナ</sup>抄<sup>イナ</sup>く<sup>イナ</sup>テ<sup>イナ</sup>ガ<sup>イナ</sup>リ<sup>イナ</sup>て<sup>イナ</sup>水<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>運<sup>イナ</sup>レ<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>石<sup>イナ</sup>入<sup>イナ</sup>候<sup>イナ</sup>也<sup>イナ</sup>  
何<sup>イナ</sup>れ<sup>イナ</sup>リ<sup>イナ</sup>テ<sup>イナ</sup>抄<sup>イナ</sup>ク<sup>イナ</sup>テ<sup>イナ</sup>ガ<sup>イナ</sup>リ<sup>イナ</sup>て<sup>イナ</sup>水<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>運<sup>イナ</sup>レ<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>石<sup>イナ</sup>入<sup>イナ</sup>候<sup>イナ</sup>也<sup>イナ</sup>  
く<sup>イナ</sup>抄<sup>イナ</sup>く<sup>イナ</sup>テ<sup>イナ</sup>ガ<sup>イナ</sup>リ<sup>イナ</sup>て<sup>イナ</sup>水<sup>イナ</sup>斗<sup>イナ</sup>運<sup>イナ</sup>レ<sup>イナ</sup>モ<sup>イナ</sup>石<sup>イナ</sup>入<sup>イナ</sup>候<sup>イナ</sup>也<sup>イナ</sup>  
あ<sup>イナ</sup>ら<sup>イナ</sup>ハ<sup>イナ</sup>海<sup>イナ</sup>ノ<sup>イナ</sup>物<sup>イナ</sup>也<sup>イナ</sup>

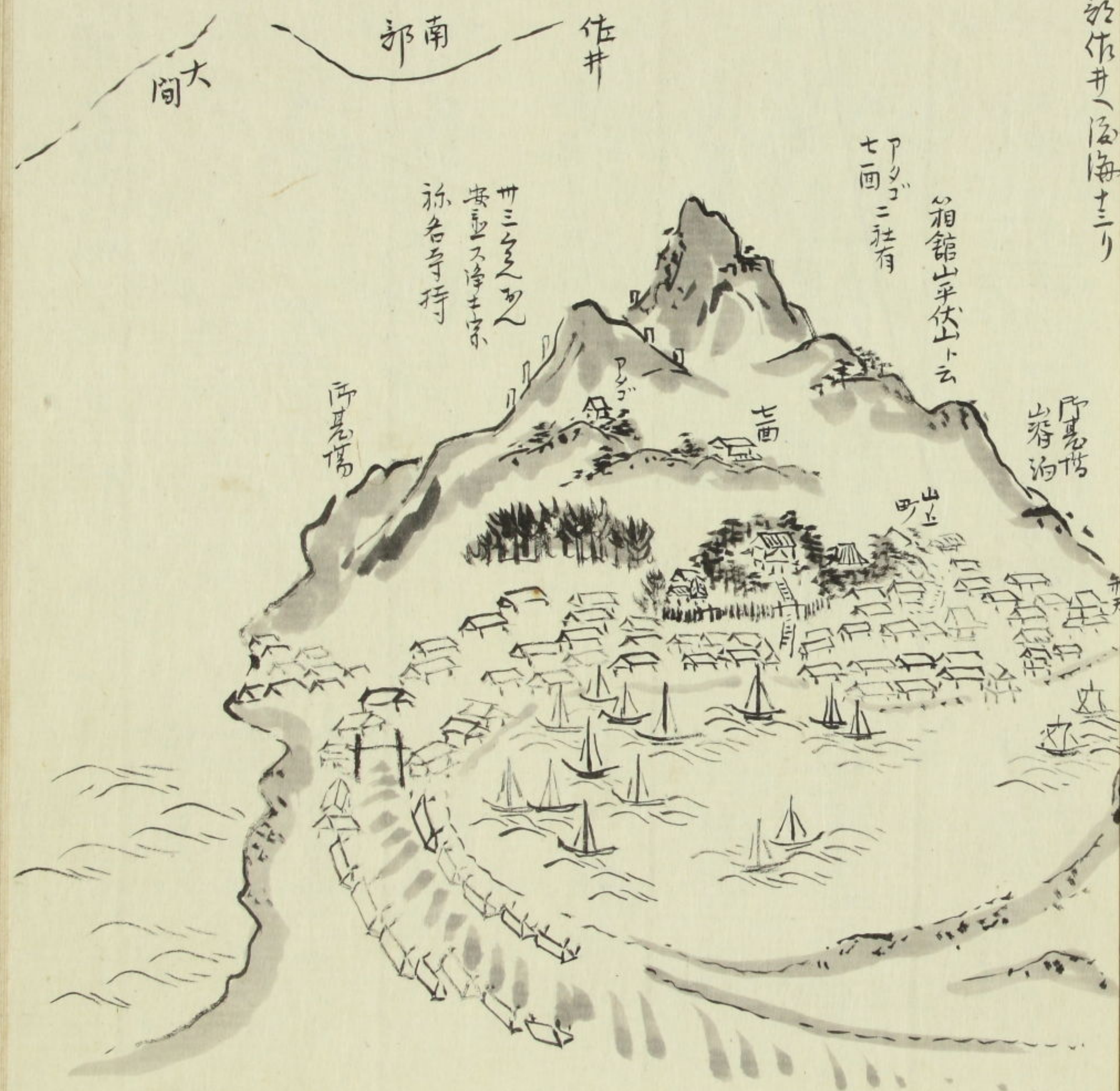






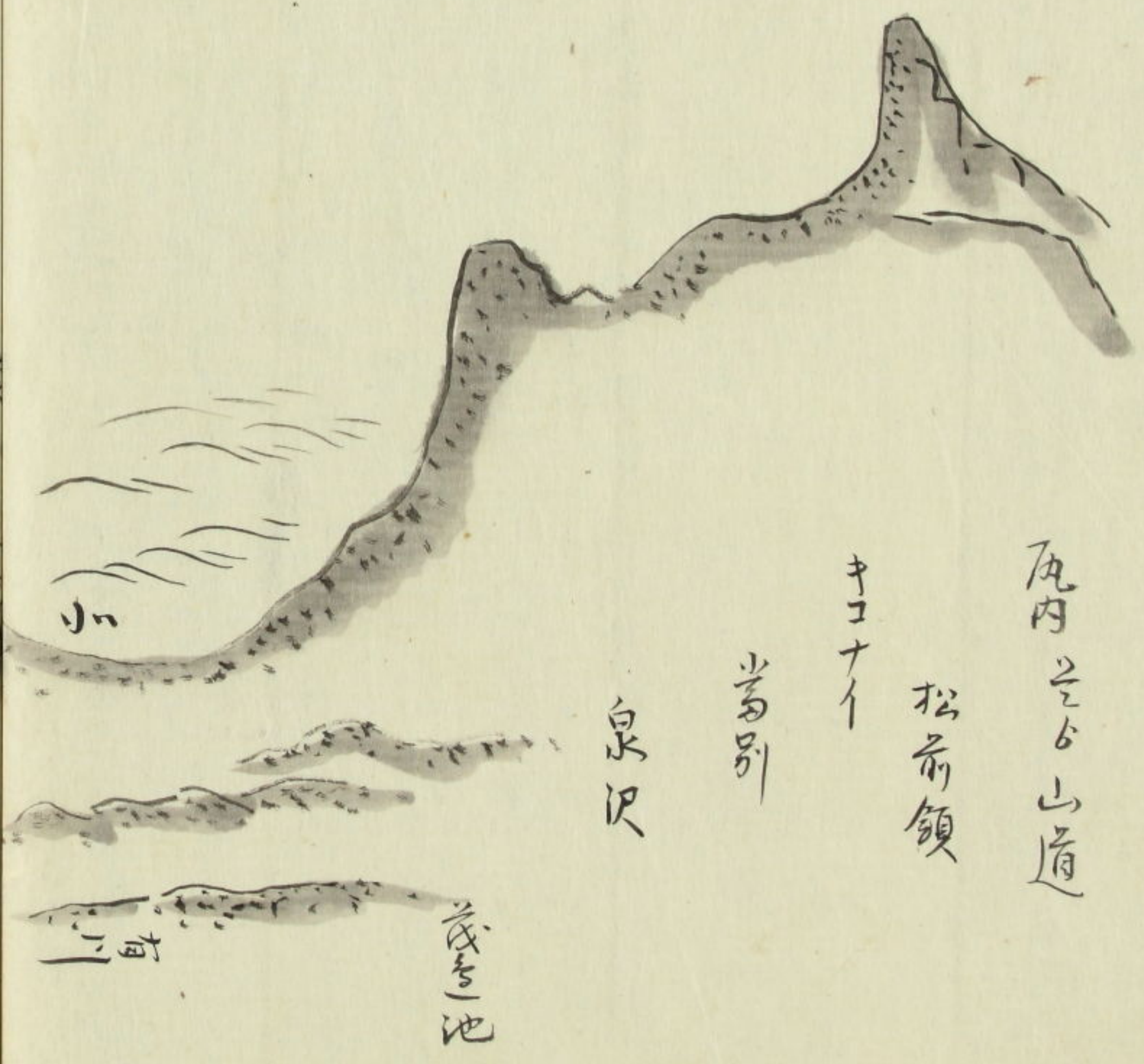






南郷佐井(海)ナリ

南



二十日午後松前城下より通る境中流谷東岸より  
 時介大穴より登りて其の西より也



竹相籠ノ町入口狹形トP処ヨリ

地蔵町

日沼町

大町

辨天町

山口別荘  
嘉平名宅

龍沼町

山脊泊

山ノ上町

大里町

神明町

中町

磯六町

會所町

大工町

瓦津色

此上ニ序殿トP  
序陣石有

糸天ノ社有

川瀬川位住

日蓮宗位住  
序陣石アリ

川所遊女位住  
序陣石アリ  
楯下川相立  
遊女ヲガノ字ト習  
花代四六

此処は家多  
遊女位住  
遊女ノ位  
遊女ノ位  
遊女ノ位  
遊女ノ位

川心神明  
社有

川上ハツ持  
人位住  
ハツ持  
社有

丁士牛止  
社有

寺四ヶ寺

深家

日蓮

降玉

一向

高勢寺

実新寺

祢名寺

降玉寺



ノ口と書也

海ノナリ市ノ箱館ノ名也松本城ノ川也  
新城ノ出来ノ川ノ名也箱館ノ名也  
玉ノ名也

△ 者川

之後ノ名解ノ名也

川

○ 茂地

北ノ名也

茂地ノ名也

川ノ名也

△ 泉澤

当別

川

○ 内村

キコ十ノ

今ノ名也

是ノ名也山ノ名也  
是ノ名也山ノ名也  
是ノ名也山ノ名也

△ 一ノ

山中

是ノ名也  
是ノ名也  
是ノ名也

○ 福村

名

是ノ名也



伊是多ナリ

吉岡村

亦付之能村ナリ

朝立つては昔より先立食むる丁寧ナリ是より  
去る程一り雪のつらトナリスベリたむる程亦  
け治むる峰たし方ナ丁斗るキ必之雪一ツラ  
如く野馬多く之れりてたると方白神の泉  
心是所の見ると雪風吹くしむる程ナナナリ  
一り余りあり

尖燒澤

池原多

是より此へ人字多し其所が里別野部福山  
城至トナリ

○城下

三ノ年

唐津内所坂ノ上  
松前寺ノ殿ノ宅  
伊是多

翌年七月城の見は古津山 伊是多 宗廟尾  
玉ノ如く一松前候下と目録出たは伊是多  
古津山 風待土日新 西風と吹風とありとも  
まより古津山 伊是多 伊是多 伊是多 伊是多  
丸の内の事如く伊是多 伊是多 伊是多 伊是多  
山 伊是多 伊是多 伊是多 伊是多 伊是多 伊是多  
り 伊是多 伊是多 伊是多 伊是多 伊是多 伊是多  
地 伊是多 伊是多 伊是多 伊是多 伊是多 伊是多  
十月朔 伊是多 伊是多 伊是多 伊是多 伊是多 伊是多  
千代後 伊是多 伊是多 伊是多 伊是多 伊是多 伊是多







三盛

三盛  
所中梅子

三盛の地をいふに三盛の地は梅子の地

小漢

小漢

小漢

三盛より地をいふに三盛の地は梅子の地

地をいふ

地

三盛より地をいふに三盛の地は梅子の地  
七ノ戸ノ地をいふに三盛の地は梅子の地

三ノ戸

トナリ

三ノ戸

一ノ戸

トナリ

一ノ戸

小漢村の地をいふに三盛の地は梅子の地  
三盛の地をいふに三盛の地は梅子の地

沼宮内

トナリ

沼宮内

大沼宮内の地をいふに三盛の地は梅子の地  
中斗り介の地をいふに三盛の地は梅子の地

三盛

三盛  
所中梅子

三盛の地をいふに三盛の地は梅子の地  
三盛の地をいふに三盛の地は梅子の地

花巻

花巻



















嘉永七甲寅三月十日江戸浄土

但三蝦夷地方唐古島近右ハヨ西無人唐古  
江多ク陳百ヲ依リ居ル又浄土見徳乞

若年号支配

浄目附 浄朱印付

堀 織部 振

用人

久住久多房  
伴東宗助  
徳田熊三郎

浄徒士目付

浄禮文付

川津三郎左衛門

平山録二郎

冷水尚左衛門



序目附支死

序少人自付 序禮文付

堀井法次郎

萱野涼五右衛門

吉岡之平

松岡徳二郎

吉田孝彦

序老中支死

序勘定味 序朱市附

村垣与三郎孫

用人 後田良助

序勘定改役

青山金起左衛門

青山清五郎

序勘定留役 序朱市付

水野庄左衛門

序勘定

松又英次郎

支死勘定 序禮文付

安間徳之進

上川傳一郎

長口清三郎

序勘定吟味下役 序禮文付

陰木孫四郎

長谷川清次



吉見健之丞

所普請役 所修文身

到田之吉身

後田之吉身

郡司 庄西

間之吉身

日代

福岡全吉

山本恒三郎

橋本吉身

天文

津田重一郎

業学

我田雙三郎

各村六八郎

坐

江戸 二月出立 所先

所勘定身役

水野 庄吉身

上川 傳一郎

吉口 清三郎

河津 三右衛門

長谷川 清作

向宮 隆二郎

同宮 隆二郎

同宮 隆二郎

年七人

年八人

年八人

年七人

年七人

年七人

年七人

年七人



口代

福園全五郎

口三人

口代

松本常義

口三人

口代

津田重一郎

口三人

口代

松尾徳二郎

口三人

口代

若田文彦

口三人

ノ 出控人

三月十日 招前出控人

招前 候者

近藤 兔毛

口一人

氏宗 亦把持者

口一人

中津 信彦

口一人

今井 八右衛門

口一人

後士 目付

西村 文彦

口一人

池田 福太郎

口一人

田澤 春彦

口一人

西村 惣次郎

村井 徳五郎 外控三人

桑子 馬

指込七

口代

桑子 馬

口代

口代

小倉 始馬

四十七

介 野馬 澤山 山彦

伊之 志 道 同 村 日 新 友 氏 松 初 候 夕 也 所 人 彦



堀原之節

伊予守 田崎与三郎 未入

信長 小室宗三九郎 日三入

從士目付 石里与三郎 日三入

横井与三郎 日三入

下山仙庵 日三入

足物与三郎 未入

卯六人

系馬凡十四名

小室与三郎 三十一 余 羽子澤山

卯:

伊予守

從士目付 鈴木尚古郎 未入

足人 堀井与三郎 日三入

日 萱野与三郎 日三入

ノ

村垣原ノ節

伊予守目付 三山与三郎 未入

少目付 陰本与三郎 日三入

副田与三郎 日三入



招前候方

新井田玄番

右四

喜山兵馬

日三

招林具兵

右四

兼田源兵

合端 兵 右三

三村 兵 右三

外六人

三馬

小高始

和子後人... 招前候方... 三馬... 外六人... 招前候方... 三馬... 外六人...

和子後人... 招前候方... 三馬... 外六人... 招前候方... 三馬... 外六人...

蝦夷之云云

一 神佛又殿孫也

のカムノナ

一 以形トナ

ニシハ

一 日本ナ

シヤ七

つらき物と思

一 村長名云云

乙名







右ヲ	シモシテケ
むらヲ	レウレ
乳ヲ	トラ
へそヲ	ソニコ
ちろヲ	ホニ
男根ヲ	タケリ
陰洞ヲ	ボツケ
スレキヲ	ホツケヲツケ
ウニコヲスルヲ	バツタリ
いんト云ヲ	コチヤシ
早クト云ヲ	トニサセ
痛ト云ヲ	モゴロ
ちんちヲ	レニケ
かまのつと 荏ノつと	チニコロパニコロ
イヤヲ	コチヤシ
免ト云ヲ	アト
らんヲ	エタニキ
系らんヲ	シニエタニキ
湯ヲ	セツツカ
水ヲ	ワツカ
川ハちろ	ベツト云
澤ヲ	ナ江
池沼ヲ	トラ
金銭	シヤモ宝
キンセツヲ	セレニボ
たごゴヲ	タニバコ



久々ぶらぶら  
 ロウソクトエラ  
 むぐべラ  
 得ラ  
 赤ラ  
 口ろまラ  
 毛物ラ  
 帯ハ  
 かきうおラ  
 生れらるラ  
 死ラ  
 よめニシラ  
 ちこラ  
 ヤカラブテ  
 バラフ  
 ツケニベ  
 ツケニベ  
 チエツバ  
 ペチエツバ  
 メアニベ  
 フロ  
 コツ  
 シユクツプ  
 ライ  
 コラシニツ  
 コス

後々ある  
 今更のりおおラ  
 平せし人々  
 タアハラ  
 へそのトおんてラ  
 奥帳ある男根ラ  
 女ノおハるの回  
 背中ラ  
 縁取  
 尻ラ  
 足ラ  
 ひざラ  
 足ノ甲ラ  
 ちびラ  
 タ子クラ  
 ニツコ、ロ  
 タ子クラ  
 フクラニ  
 ノキ  
 ツエ  
 セトロ  
 イツケノイ  
 ラシユロ  
 チキリ  
 コツカシヤバ  
 ヨニテカム  
 アシキベツ



つめんヲ  
 髪ノ毛ヲ  
 めえ房ト云フ  
 いたいくヲ  
 風のよんト云フ  
 向はらゑちヲ  
 自らのゑちヲ  
 ちかき花ヲリヲ  
 小た<sup>ハシ</sup>ーの<sup>ハシ</sup>ヲ  
 犬ヲ  
 子<sup>ハシ</sup>ヲ  
 瓶ヲ  
 アサヲニヲ  
 トガヲ  
 小舟ヲ  
 馬<sup>ハシ</sup>舟ハ  
 ふきの<sup>ハシ</sup>ち<sup>ハシ</sup>ヲ  
 サ新の<sup>ハシ</sup>に  
 石ヲ  
 女<sup>ハシ</sup>房ヲ  
 子<sup>ハシ</sup>ヲ  
 湯<sup>ハシ</sup>の<sup>ハシ</sup>あつきを  
 瓶ヲ  
 男ヲ  
 えハ

アミ  
 フトビ  
 ニヅ  
 アラカ  
 レラ。ピリカ  
 イカトウニ  
 クカトウニ  
 ニヨウカロ  
 サ子ツプ  
 セタ  
 イリモ  
 ニユウニ  
 トガリ  
 イタミシベ  
 チツプ  
 馬チツプ  
 コロコニ  
 アベツクニ  
 シニ  
 ニヅ  
 あコ  
 フア、  
 セク  
 チカツプ  
 ツツカイ  
 ユビ



カハ	ワキ
男子ハ	セカチ
女子ハ	カナチ
空へヨテ夕	コヘシ
シラヌラ	シヤバ
善い物ラ	イシヤ
嫁ニシラ	メアニベ
誓ラ	コウシニツ
今ヨハハ	ココ
夕アラ	タシド
いそぐ	ラクラニ
イヤラ	ワボク
	コチヤシ

唐古色

カワクニ	カハ
チニツト	男子ハ
ユツ	女子ハ
シウケア	空へヨテ夕
ラバラ	シラヌラ
シントハイ	善い物ラ
ミヤシント	嫁ニシラ
ポニノ	誓ラ
ポコ	今ヨハハ
シコツポ	夕アラ
セニカキ	いそぐ
テバ	イヤラ
ライケ	







同西浦トシナイ支碇

エシルモコモフ

ホロトニリ

ラクマカ

トニリホ

トコタン

トラコタン

之外村扱六丁村

振夫家百ハ新

人数七百半之入

男ニ百半  
女四百ハ

クシニコタン

魚乙名

ベンクカン

三十七才位

口

少度

千クラン

四十才位

シラヌシ

乙名

ラケララ  
四十才位

少度

カキ  
三十才位

トシナイ  
眼乙名

ニヤニルシ  
三十才位

東西産物

鯪

一万弘千石目

鯪

三千石目

口東浦

鯪

一万石目

鯪

沙多石目

口西浦

鯪

沙多石目

鯪

二百石目

漁船東浦

系今船

五

海海船

之平船

十九

平太船

九十

振夷船

十二



磯船 五

援船 三

西浦

景今船 八

三平船 十

平太船 五

船夫船 九

右惣傷和去ル世年

運上金千五百立務兩

出高下子割 通付支能兼

松前小住務 清水平三郎

性段 志由  
西浦少段兵由

シラ又ニ 支能人 喜三郎

口看堀極々 伊草月シラ唐左ノ奥ヲ口ツ境之唐左  
シラ又ニ 中子志ト皆々 大支能人ヲ以テ番人ノ後伊草  
極々ノ家来又自是ナリエリナハ皆々ト支能ナリ

外ニ番人 百九人

内 東浦 八十人

西浦 十八人

漢業出稼 東浦 船夫ノ男女

五百立務人

西浦 百七拾人

外ニ産物海産物  
四百斤ニ込



唐右行場前役振頭人

順序名前

シラヌシ  
クシユシコタニ  
ウエニニ  
シラヌシ  
十卫ヨロ

クシユシコタニ  
ホラツプニ  
クシユシコタニ  
トコホ

惣名

ワケノラ  
ベクカン

日

テツホ  
サトルキ  
シトクレラシ

服名

ツケ子ブ  
ラツカニテシユ  
ラムラニケ  
ニセシルシ

宗小使

キアシラニケ  
ハチロシポ

乙名

シヨフロ  
チエア

少使

アシケ相ノ  
フシチ

御士差名

セイロ  
キンハウエ  
シサキセ

シレトコ

一ナラシナイ

シラヲロ

サイトム

ヲワイコニ

ウシユシナイ

リヤトコリ

シラヌシ

ライチシカ

ウシユシナイ



ロウエユニ

ウワロ

タシユニコタン

アサシナイ

トコホ

リヤトニリ

ポロアニトニリ

トウフツ

ミレトコ

ウフロ

ヲロキ

ヲタサシ

イ又シナエ

ウニラ

タコエ

ロレイ

ニトニナイ

ハツコトニリ

ナエホ

アサシナイ

シクツル

レエコロ

ウレエン

（ケセハエクル  
スクニウ）

ナヌニコ

トワトコ

エツポニク

ヨモサク

セ子セコ

カ又ハツラ

ヌカフクル

ヲニ子

ニウラニ相ノ

エフシヤタ

サアフニ相ノ

ニアリ相ノ

トカキリ

ナ子キロク

ニコイ

ノ 四拾人

蝦夷倭人各前也



安政四丁巳歲六月程東武寫之

猪山直之所藏



